

第5章 青少年向けアンケート調査結果

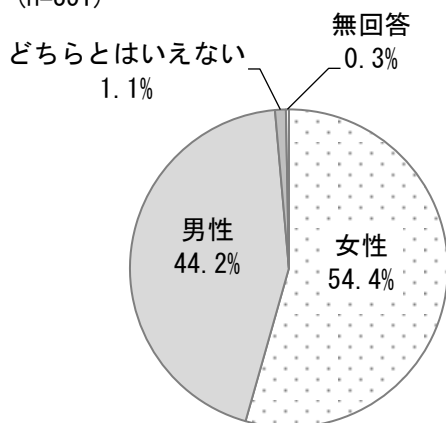
1. 回答者について(基本属性)

問1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

「女性」が54.4%、「男性」が44.2%、「どちらとはいえない」が1.1%となっている。

図表Ⅱ-1 性別(単数回答)

(n=351)

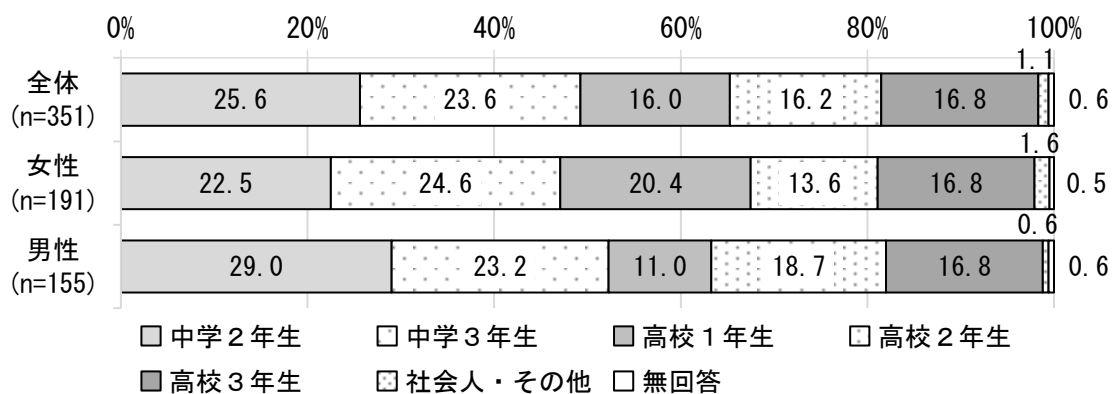


| | 抽出数 | 回答者数 | 回答率 |
|-----------|--------|------|-------|
| 女性 | 500人 | 191人 | 38.2% |
| 男性 | 500人 | 155人 | 31.0% |
| どちらとはいえない | — | 4人 | — |
| 無回答 | — | 1人 | — |
| 合計 | 1,000人 | 351人 | 35.1% |

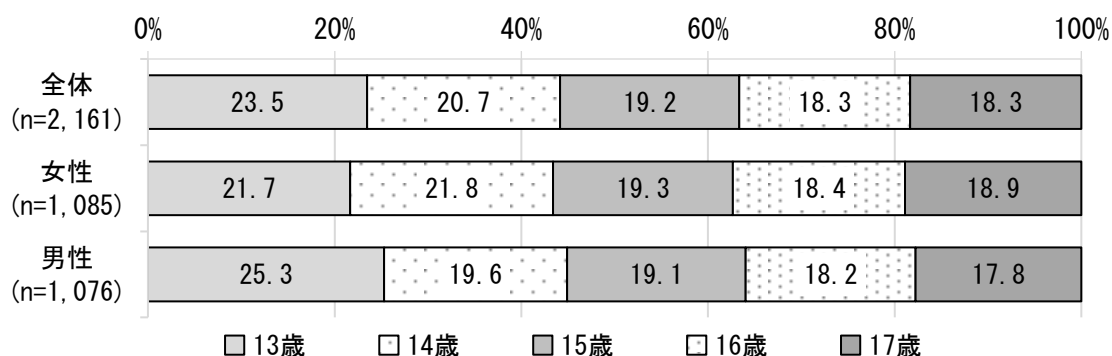
問2 あなたの学年を教えてください。(○は1つ)

「中学2年生」が25.6%と最も多く、次いで「中学3年生」が23.6%、「高校3年生」が16.8%となっている。

図表Ⅱ-2 学年(単数回答)



図表Ⅱ-3 [参考] 千代田区年齢別人口割合(令和2年1月1日現在)

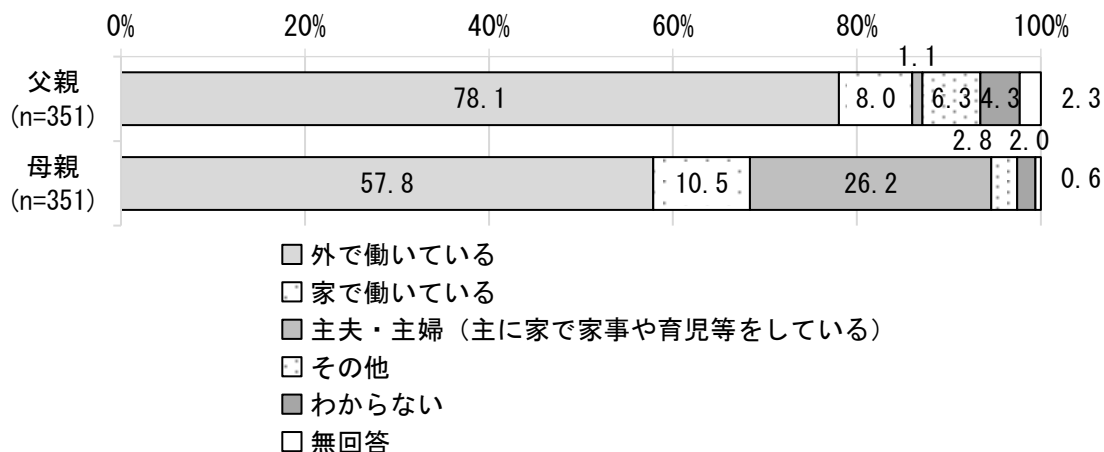


問3 あなたの父親・母親は、現在、どのように働いていますか。(それぞれの項目について○は1つずつ)

父親は、「外で働いている」が78.1%と最も多く、次いで「家で働いている」が8.0%、「その他」が6.3%となっている。

母親は、「外で働いている」が57.8%と最も多く、次いで「主婦（主に家で家事や育児等をしている）」が26.2%、「家で働いている」が10.5%となっている。

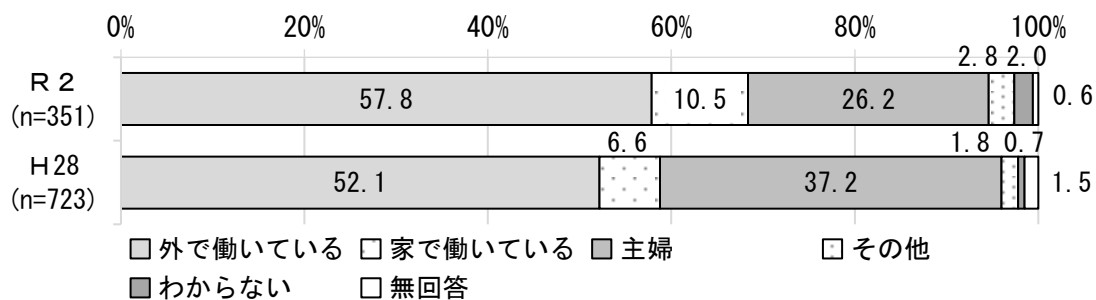
図表Ⅱ-4 父母の就労状況（単数回答）



■平成28（2016）年度区調査との比較（母親）

「外で働いている」は、52.1%から57.8%へ5.7ポイント増加している。また、「主婦」は、37.2%から26.2%へ11ポイント減少している。

図表Ⅱ-5 父母の就労状況（単数回答）【平成28（2016）年度区調査との比較】（母親）



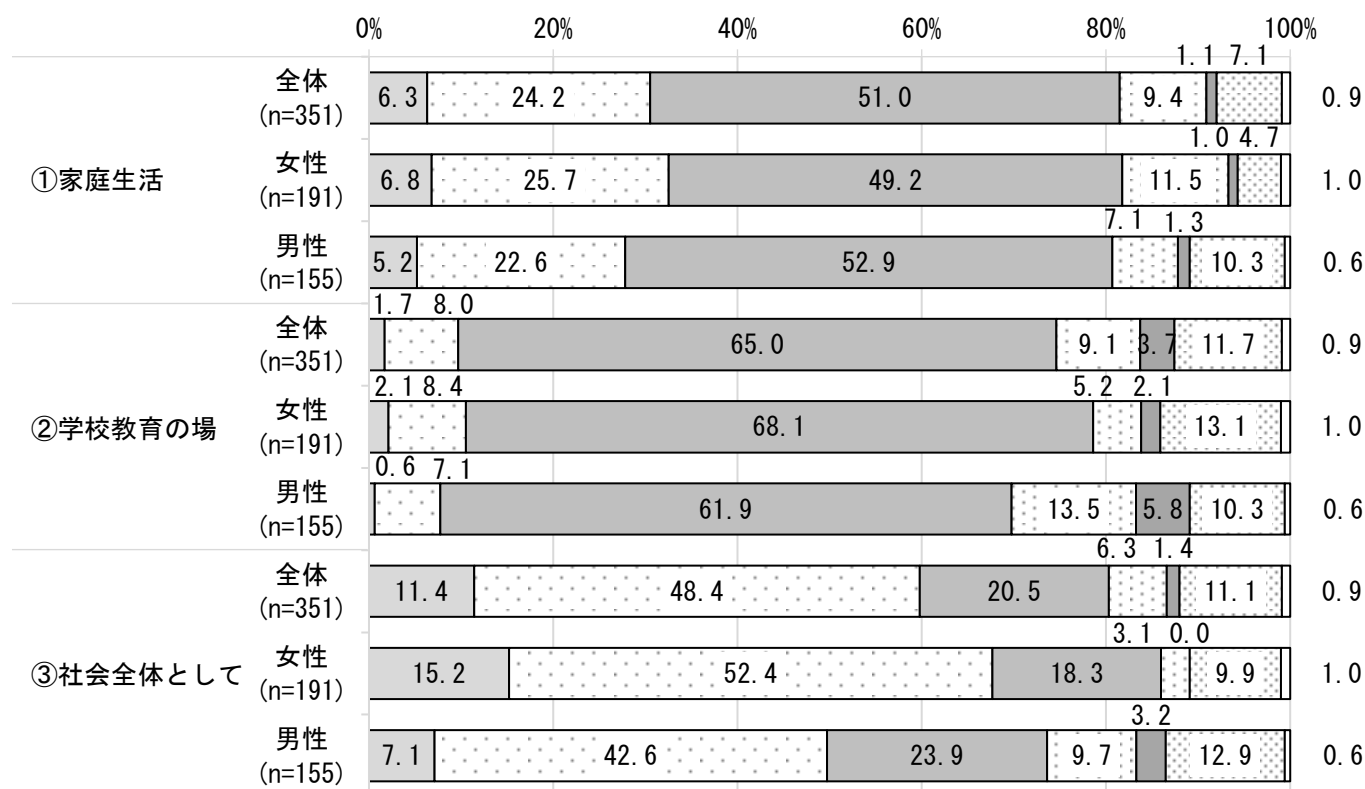
2. 日々の生活や学校生活について

問4 あなたは、今の社会では男女は平等になっていると思いますか。
(それぞれの項目について○は1つずつ)

「平等だと思っている」は、項目①「家庭生活」は51.0%、項目②「学校教育の場」は65.0%で最も多いのに対して、項目③「社会全体として」は20.5%で、「どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）」が48.4%と最も多い。

性別でみると、項目③「社会全体として」について、「平等だと思っている」は、女性が18.3%に対して男性が23.9%と女性の方が5.6ポイント少ない。また、「男性の方が優遇されている」（「男性の方がとても優遇されている（強い立場にある）」と「どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）」の合計）は、女性が67.6%に対して男性が49.7%と女性の方が17.9ポイント多く、性別により男女平等に対する認識に違いがみられる。

図表Ⅱ-6 男女平等に対する認識（単数回答）

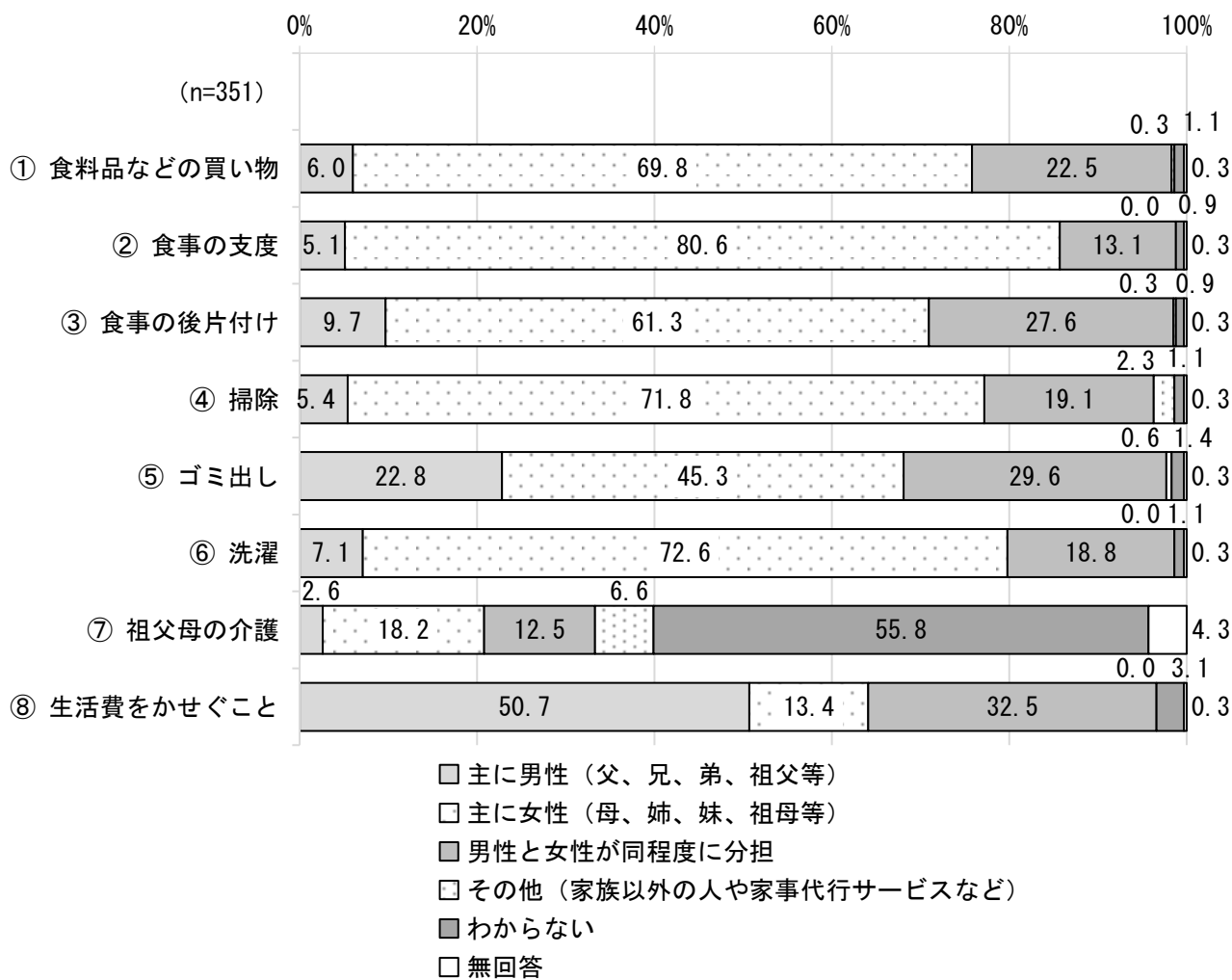


- 男性の方がとても優遇されている（強い立場にある）
- どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）
- 平等だと思っている
- どちらかと言えば女性の方が優遇されている（強い立場にある）
- 女性の方がとても優遇されている（強い立場にある）
- わからない
- 無回答

問5 あなたの家で、次の項目①～⑧の事柄を主にしているのは誰ですか。
 (それぞれの項目について○は1つずつ)

項目⑧「生活費を稼ぐこと」は「主に男性（父、兄、弟、祖父等）」が50.7%と最も多く、項目⑦「祖父母の介護」は「わからない」が55.8%と最も多いが、その他の項目では「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」が最も多い。

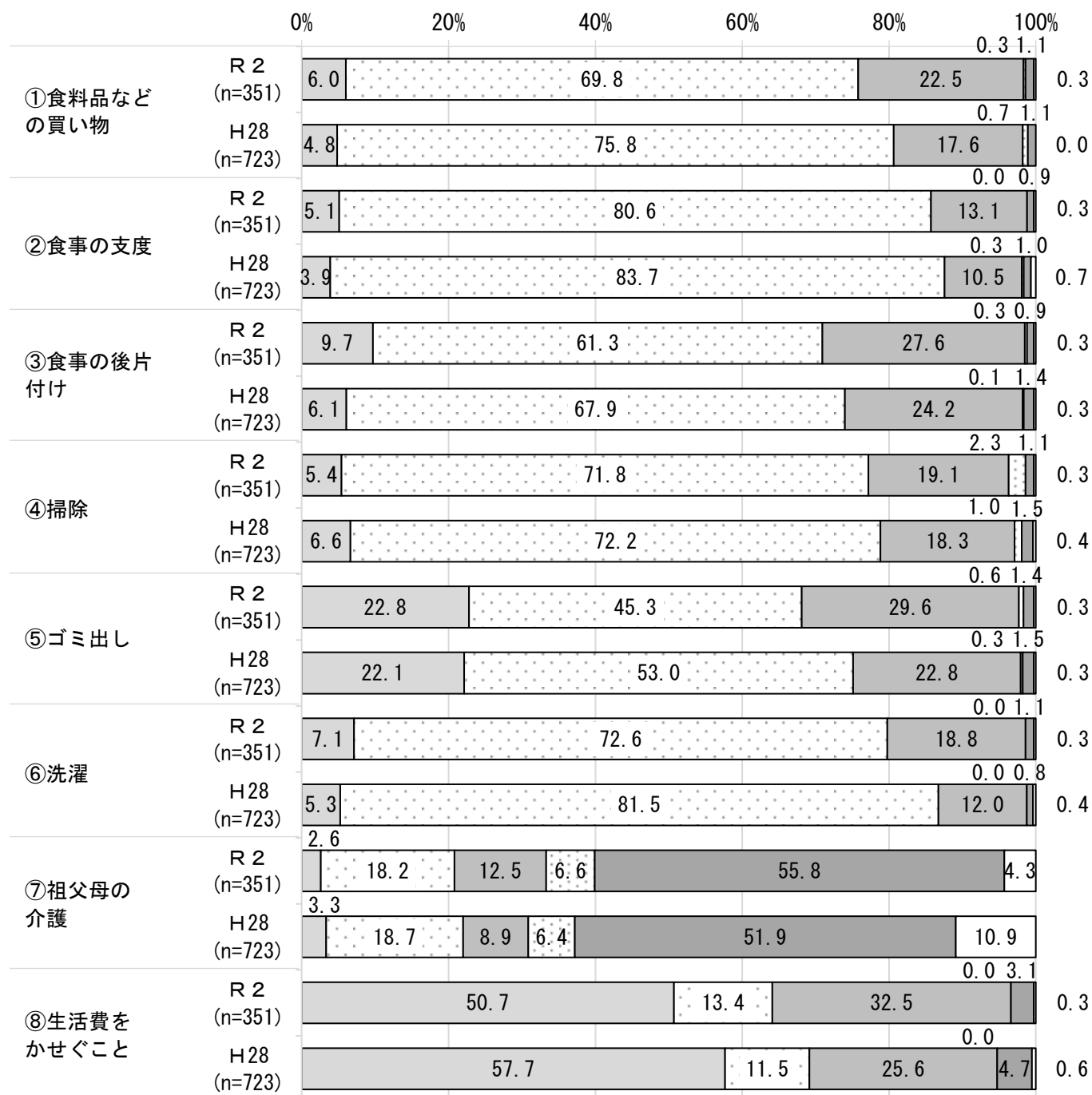
図表Ⅱ-7 家庭での家事分担の実態（単数回答）



■平成28（2016）年度区調査との比較

いずれの項目においても、「男性と女性が同程度に分担」が増加している。

図表Ⅱ－8 家庭での家事分担の実態（単数回答）【平成28（2016）年度区調査との比較】



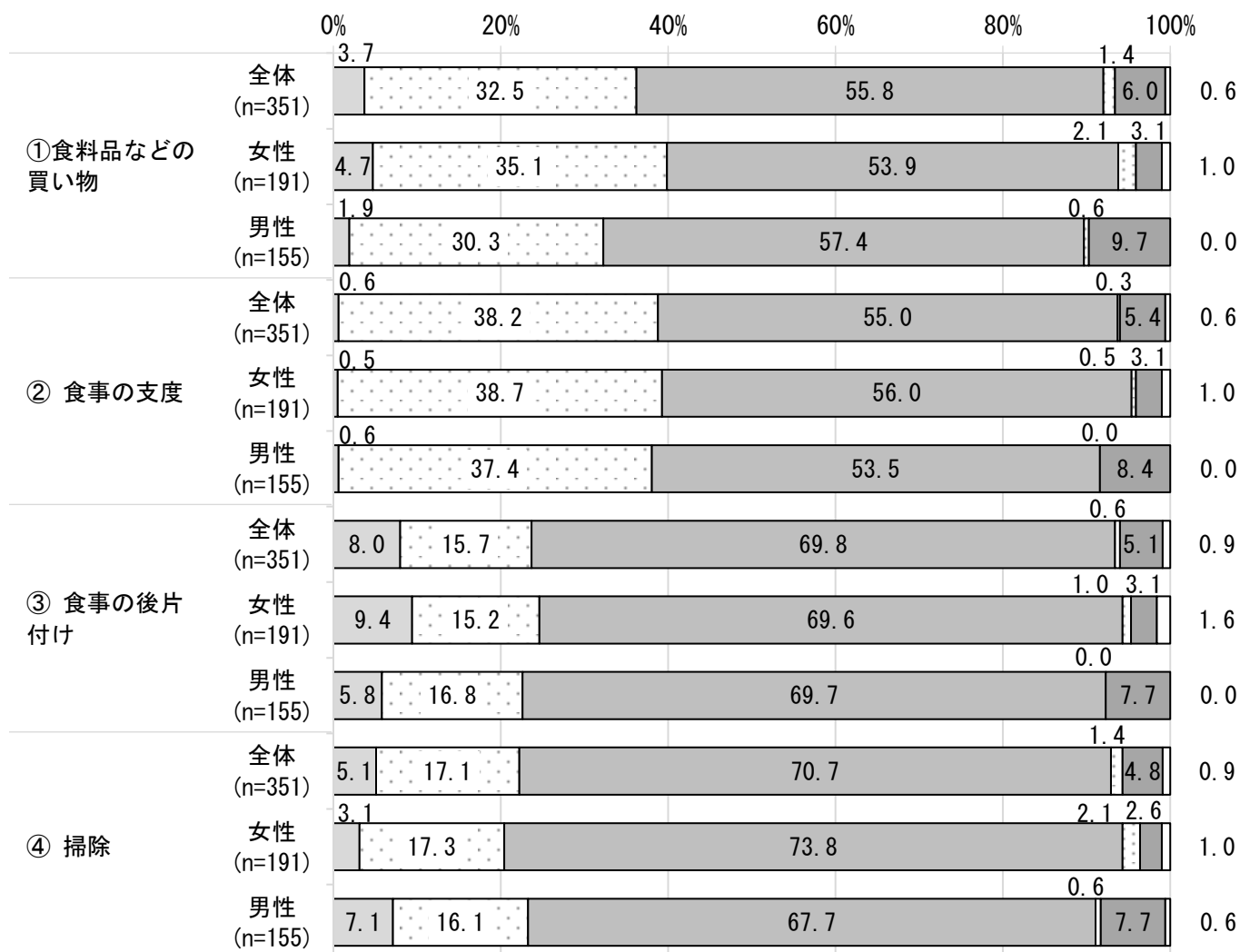
- 主に男性（父、兄、弟、祖父等）
- 主に女性（母、姉、妹、祖母等）
- 男性と女性が同程度に分担
- その他（家族以外の人や家事代行サービスなど）
- わからない
- 無回答

問6 あなたは、問5の項目①～⑧の事柄は、誰がするのが一番よいと思いますか。
(それぞれの項目について○は1つずつ)

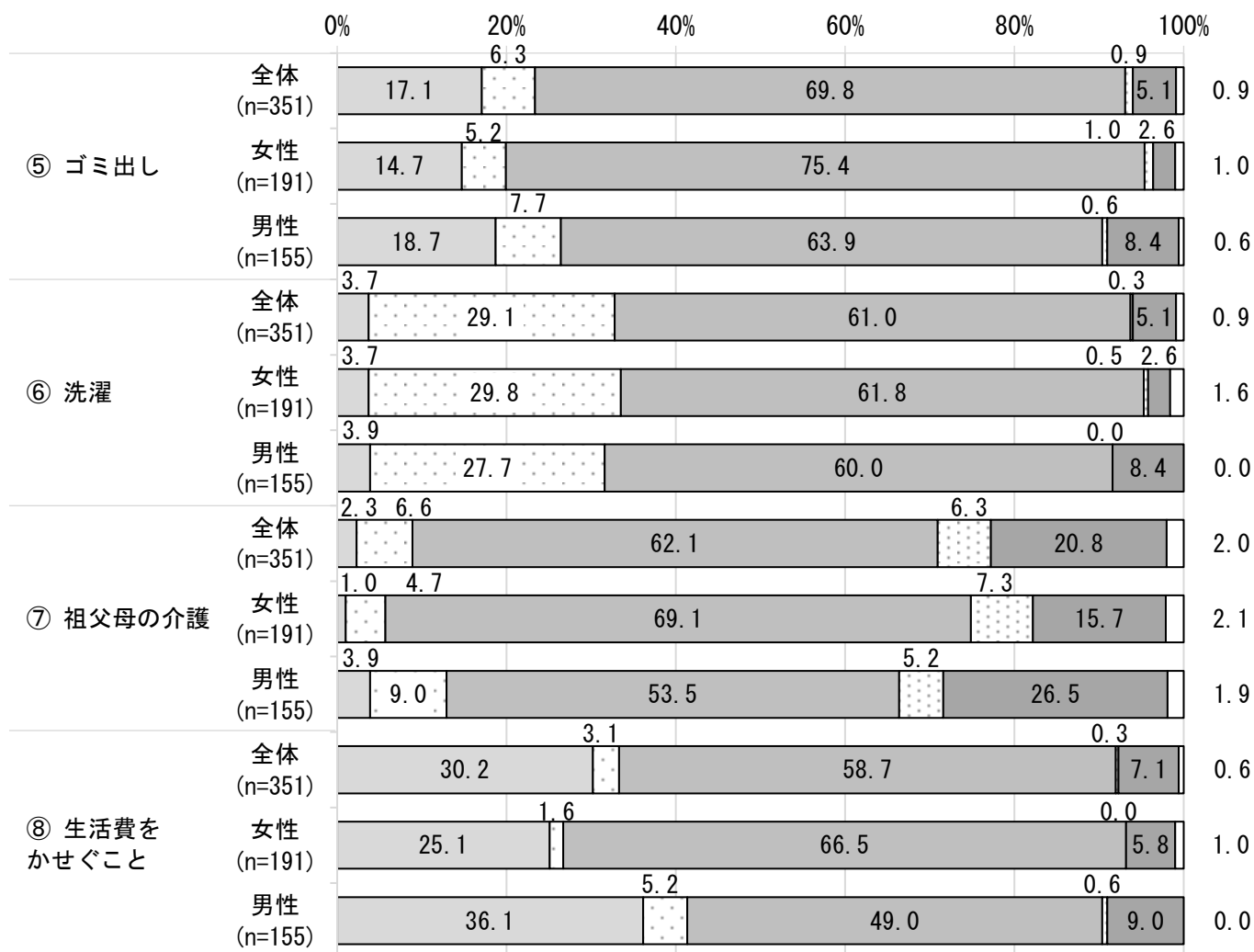
いずれの項目においても「男性と女性が同程度に分担」が最も多いが、その割合は項目により差がみられる。特に、項目②「食事の支度」は「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」が38.2%、項目⑧「生活費を稼ぐこと」では「主に男性（父、兄、弟、祖父等）」が30.2%となっている。

性別でみると、いずれの項目においても、女性も男性も同様に「男性と女性が同程度に分担」が最も多いが、項目⑧「生活費をかせぐこと」については、「主に男性（父、兄、弟、祖父等）」の割合が他の項目よりも高く、女性は25.1%に対して男性は36.1%と女性の方が11.0ポイント少なく、性別による違いがみられる。

図表Ⅱ－9 家庭での家事分担に対する考え方（単数回答）



- 主に男性（父、兄、弟、祖父等）
- 主に女性（母、姉、妹、祖母等）
- 男性と女性が同程度に分担
- その他（家族以外の人や家事代行サービスなど）
- わからない
- 無回答

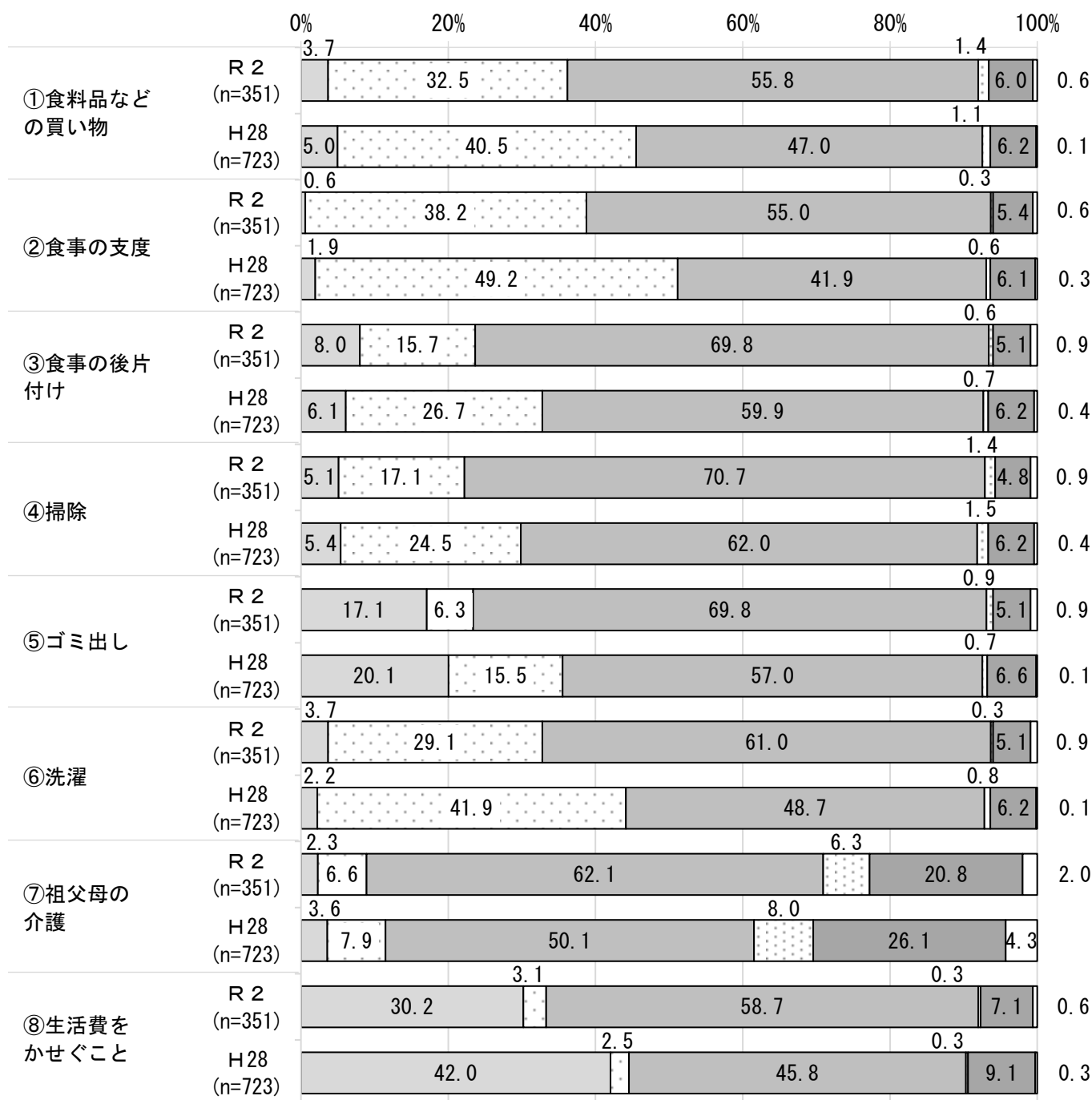


- 主に男性 (父、兄、弟、祖父等)
- 主に女性 (母、姉、妹、祖母等)
- 男性と女性が同程度に分担
- その他 (家族以外の人や家事代行サービスなど)
- わからない
- 無回答

■平成28（2016）年度区調査との比較

いずれの項目においても、「男性と女性が同程度に分担」が増加しており、特に項目②「食事の支度」、項目⑤「ゴミ出し」、項目⑥「洗濯」、項目⑦「祖父母の介護」、項目⑧「生活費をかせぐこと」について、12.0～13.1ポイント増加している。

図表Ⅱ-10 家庭での家事分担に対する考え方（単数回答）【平成28（2016）年度区調査との比較】



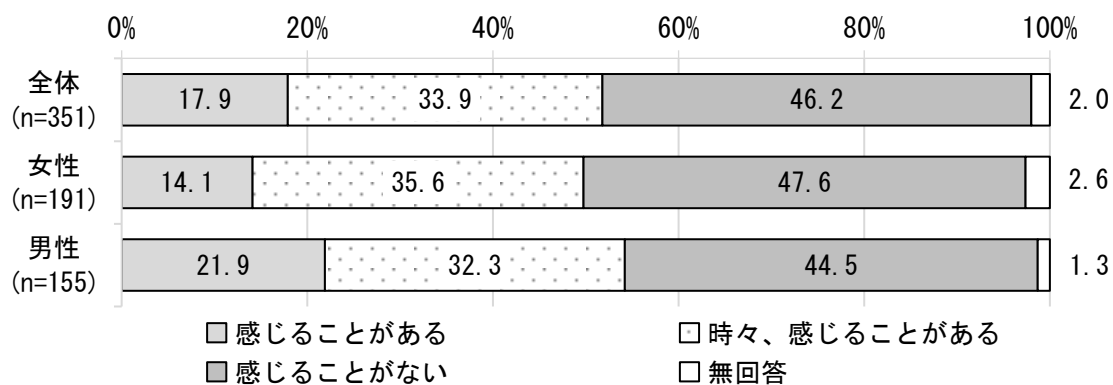
- 主に男性（父、兄、弟、祖父等）
- 主に女性（母、姉、妹、祖母等）
- 男性と女性が同程度に分担
- ▨ その他（家族以外の人や家事代行サービスなど）
- わからない
- 無回答

問7 あなたは、学校生活の中で、男子と女子では役割に違いがあると感じることがありますか。
(○は1つ)

「感じることはない」が46.2%で最も多く、次いで「時々、感じることもある」が33.9%、「感じることもある」が17.9%となっている。

性別でみると、「感じることもある」が、女性は14.1%に対して男性は21.9%と男性の方が7.8ポイント多く、性別による違いがみられる。

図表Ⅱ-11 学校での男女での役割の違いの有無（単数回答）



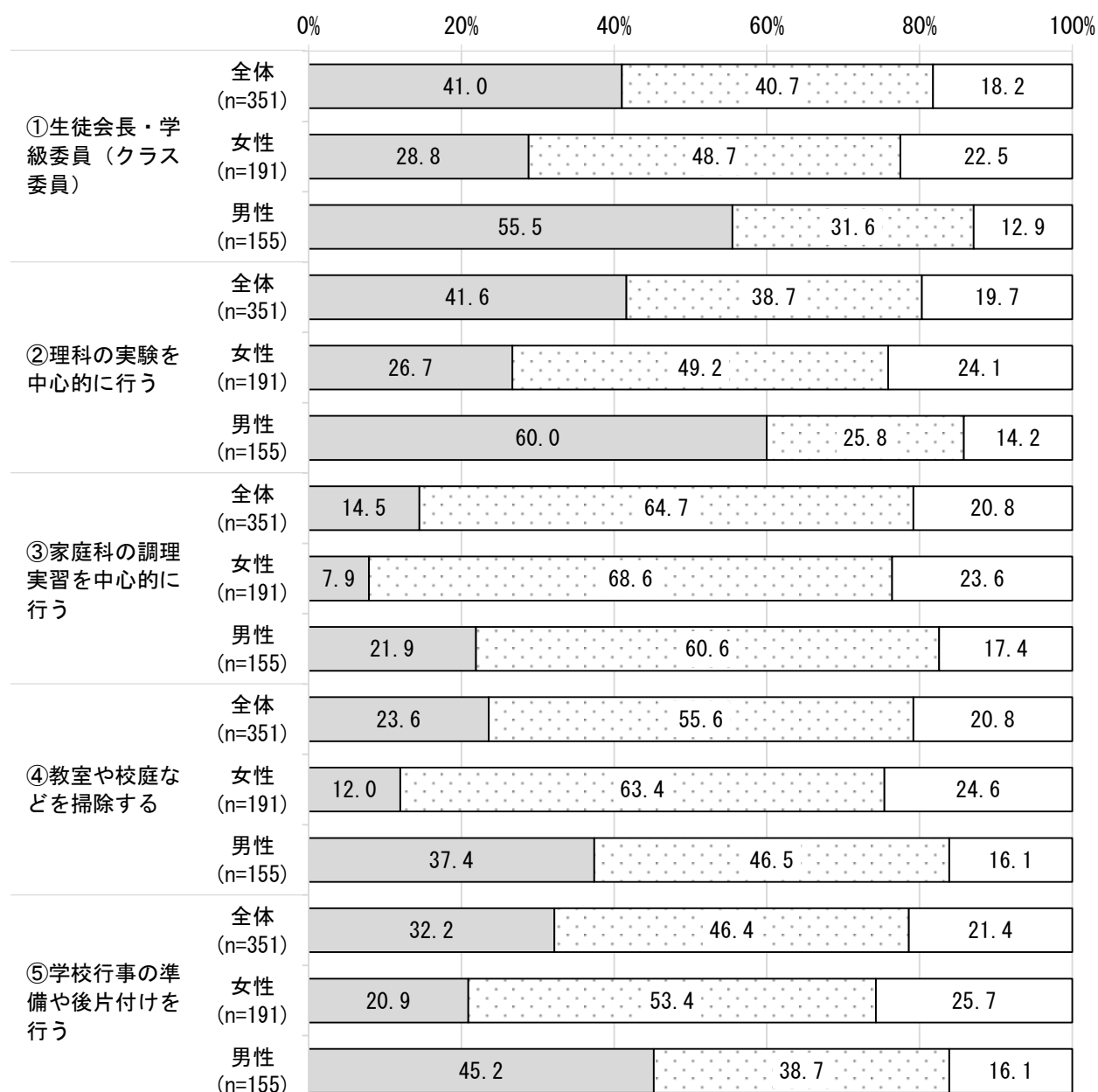
問8 ア：あなたの学校やクラスでは、次の項目は男子と女子どちらがその役割を担うことが多いですか。（それぞれの項目について○を1つずつ）

ア：学校での男女の役割分担の実態

項目①「生徒会長・学級委員（クラス委員）」や項目②「理科の実験を中心的に行う」は、「女子より男子の方が多い」と「男子より女子の方が多い」の割合が同程度だが、項目③「家庭科の調理実習を中心的に行う」、項目④「教室や校庭などを掃除する」、項目⑤「学校行事の準備は後片付けを行う」は、「男子より女子の方が多い」の割合が高い。

性別でみると、項目①「生徒会長・学級委員（クラス委員）」、項目②「理科の実験を中心的に行う」、項目⑤「学校行事の準備や後片付けを行う」について、女性は「男子より女子の方が多い」、男性は「女子より男子の方が多い」が最も多い。一方で、項目③「家庭科の調理実習を中心的に行う」、項目④「教室や校庭などを掃除する」は、女性も男性も同様に「男子より女子の方が多い」が最も多い。

図表Ⅱ-12 学校での男女の役割分担の実態（単数回答）



□ 女子より男子の方が多い □ 男子より女子の方が多い □ 無回答

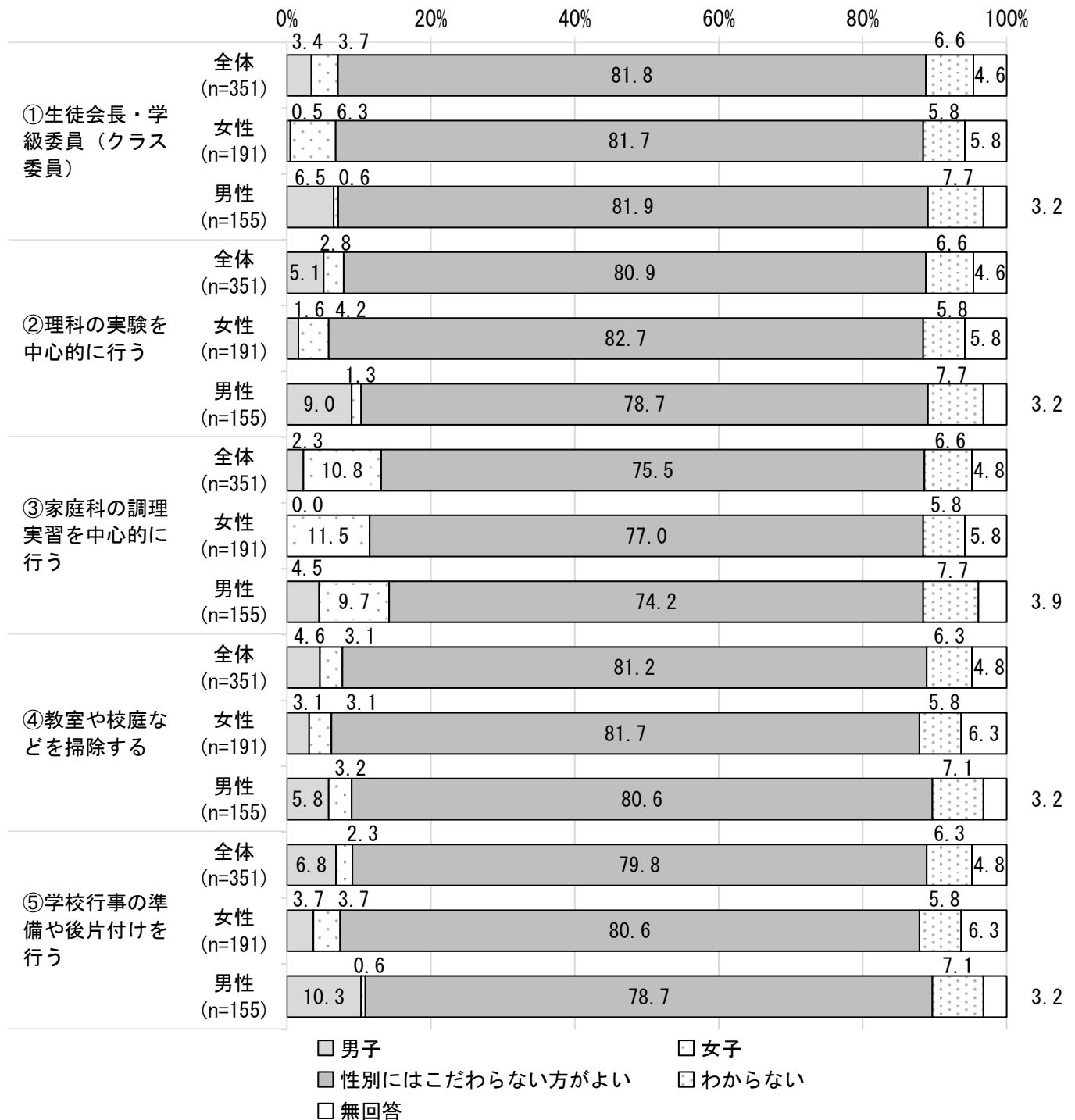
問8 イ：あなたは、男子と女子のどちらがその役割を担うべきだと思いますか。
 (それぞれの項目について○を1つずつ)

イ：学校での男女の役割役割分担の考え方

いずれの項目においても「性別にはこだわらない方がよい」が最も多いが、項目③「家庭科の調理実習を中心的行う」については、「女子」が他の項目よりもやや多い。

性別で見ると、いずれの項目においても「性別にはこだわらない方がよい」が最も多く、性別による違いはあまりみられない。

図表Ⅱ-13 学校での男女の役割分担の考え方（単数回答）



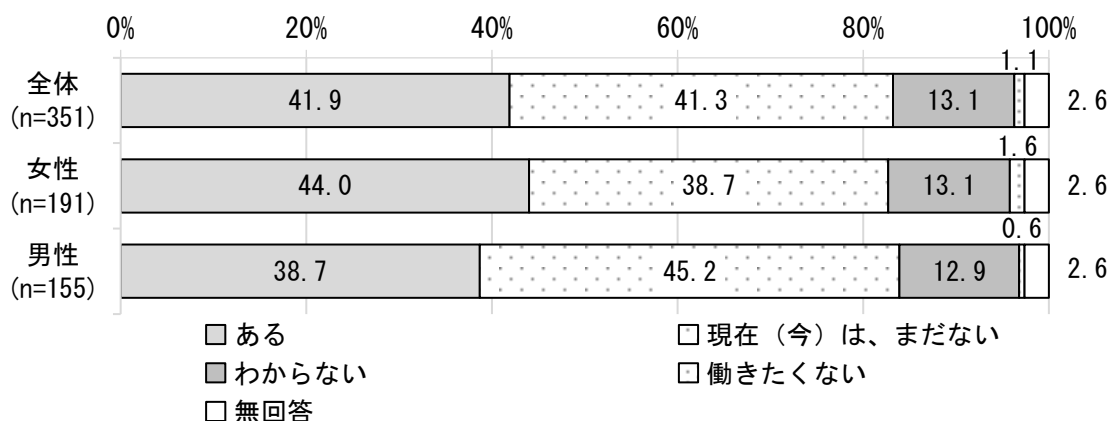
3. 将来について

問9 あなたは、将来なりたいと思う職業はありますか。(○は1つ)

「ある」が41.9%と最も多く、次いで「現在(今)は、まだない」が41.3%、「わからない」が13.1%となっている。

性別でみると、女性は「ある」が最も多く、男性は「現在(今)はまだない」が最も多い。

図表Ⅱ-14 将来なりたい職業の有無(単数回答)



付問9-1 問9で「1」を選択した方だけ回答ください。あなたが将来なりたい職業は何ですか。(職業名を1つだけ記入してください。)

「医療関係」が33名で最も多く、次いで「官公庁」が9名、「国際関係」「教師」「IT関係」「福祉関係」が8名となっている。「医療関係」の内訳は「医師」が23名で最も多く、女性が16名、男性が7名となっている。

図表Ⅱ-15 将来なりたい職業(自由回答)

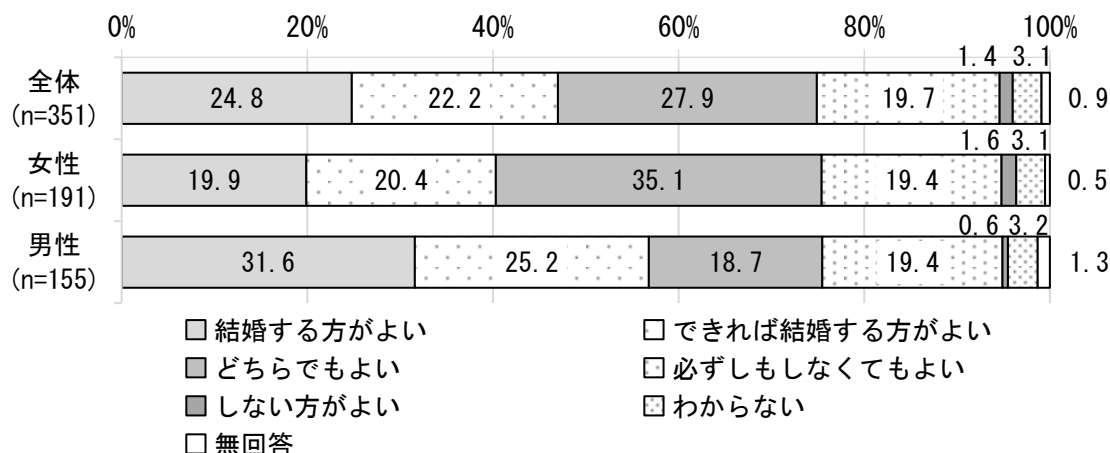
| 業種 | 人数 | 内訳 | |
|------------|----|----|----|
| | | 男性 | 女性 |
| 医療関係 | 33 | 9 | 24 |
| 官公庁 | 9 | 4 | 5 |
| 国際関係 | 8 | 2 | 6 |
| 教師 | 8 | 2 | 6 |
| IT関係 | 8 | 6 | 2 |
| 福祉関係 | 8 | 2 | 6 |
| 研究者 | 7 | 5 | 2 |
| 法曹関係 | 7 | 2 | 5 |
| エンターテインメント | 6 | 3 | 3 |
| 芸能・音楽関係 | 6 | 1 | 5 |
| 起業家・経営者 | 6 | 6 | 0 |
| 美容関係 | 4 | 0 | 4 |
| 建築関係 | 3 | 3 | 0 |
| 不動産関係 | 3 | 2 | 1 |
| 料理関係 | 3 | 0 | 3 |

問 10 あなたは、結婚についてどのように思いますか。(〇は1つ)

「どちらでもよい」が27.9%と最も多く、次いで「結婚する方がよい」が24.8%、「できれば結婚する方がよい」が22.2%となっている。

性別で見ると、「結婚する方がよい」は、女性が19.9%に対して男性が31.6%と男性の方が11.7ポイント多い。また、「どちらでもよい」は、女性が35.1%に対して男性が18.7%と女性の方が16.4ポイント多く、性別による違いがみられる。

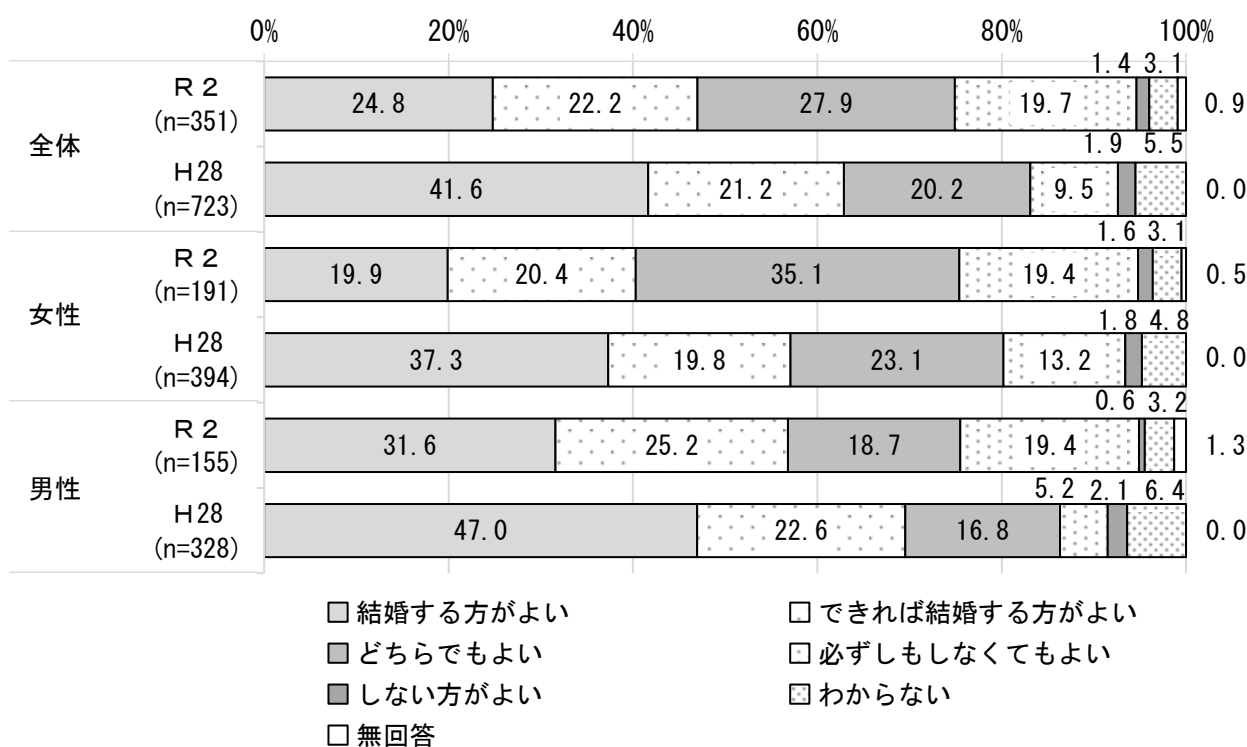
図表Ⅱ-16 結婚観（単数回答）



■平成28（2016）年度区調査との比較

「結婚する方がよい」について、女性も男性も同様に減少している。また、女性は「どちらでもよい」が23.1%から35.1%へ12.0ポイント増加しており、男性は「必ずしもしなくてもよい」が5.2%から19.4%へ14.2ポイント増加している。

図表Ⅱ-17 結婚観（単数回答）【平成28年度区調査との比較】

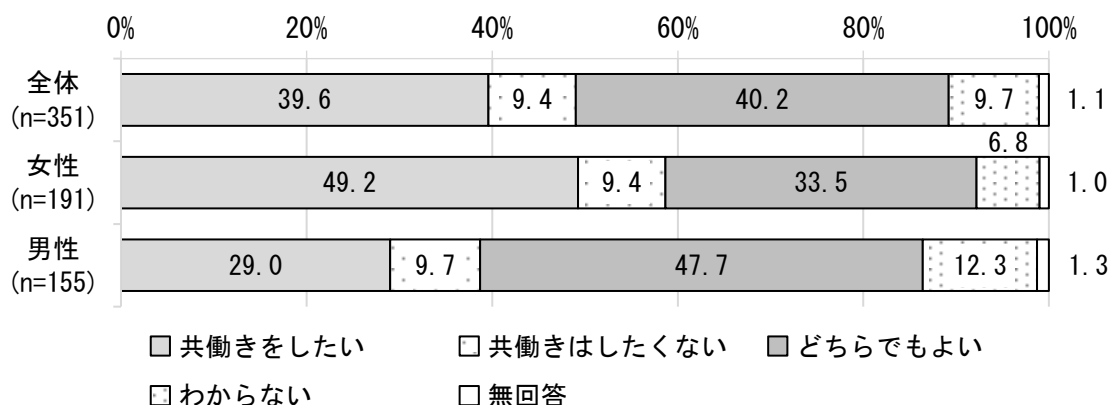


問 11 あなたは、結婚したら夫婦で共働きをしたいと思いますか。(○は1つ)

「どちらでもよい」が40.2%と最も多く、次いで「共働きをしたい」が39.6%、「わからない」が9.7%となっている。

性別で見ると、「共働きをしたい」は、女性が49.2%に対して男性が29.0%と女性の方が20.2ポイント多く、性別により違いがみられる。

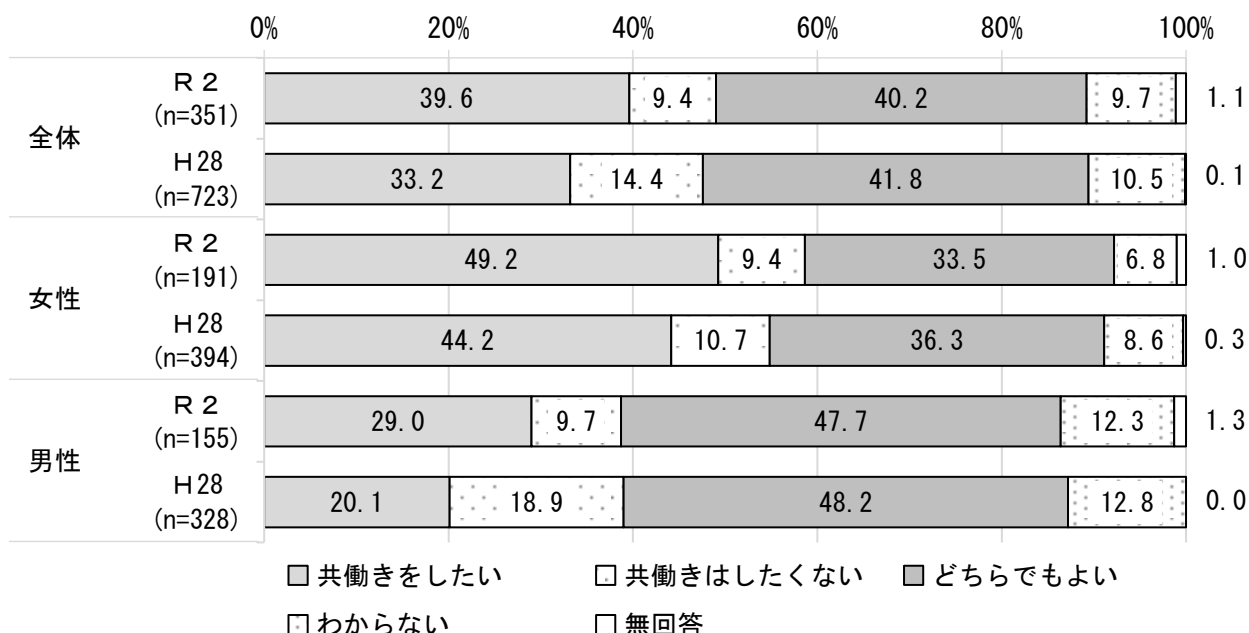
図表Ⅱ-18 共働きに対する考え方（単数回答）



■平成28（2016）年度区調査との比較

女性も男性も同様に「共働きをしたい」が増加しており、「共働きはしたくない」が減少している。

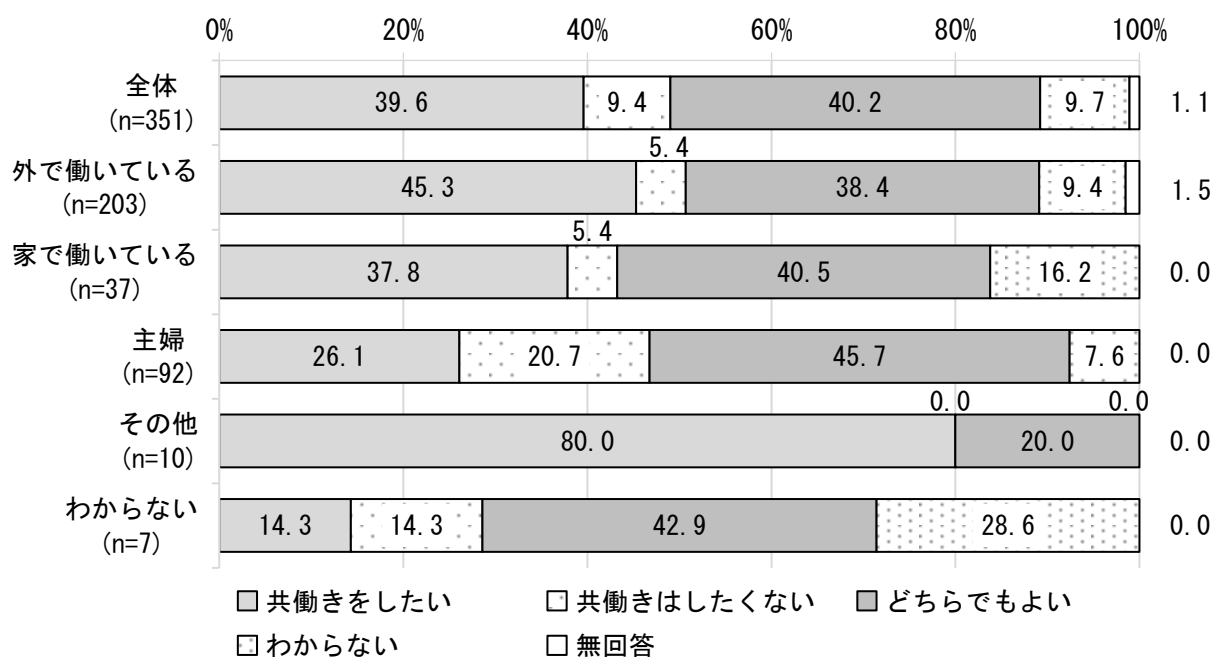
図表Ⅱ-19 共働きに対する考え方（単数回答）【平成28（2016）年度区調査との比較】



■母親の就業状況別でみる共働きに対する考え方

母親が働いている場合の方が、主婦の場合よりも「共働きをしたい」の割合が高い。

図表Ⅱ-20 母親の就業状況別でみる共働きに対する考え方（単数回答）



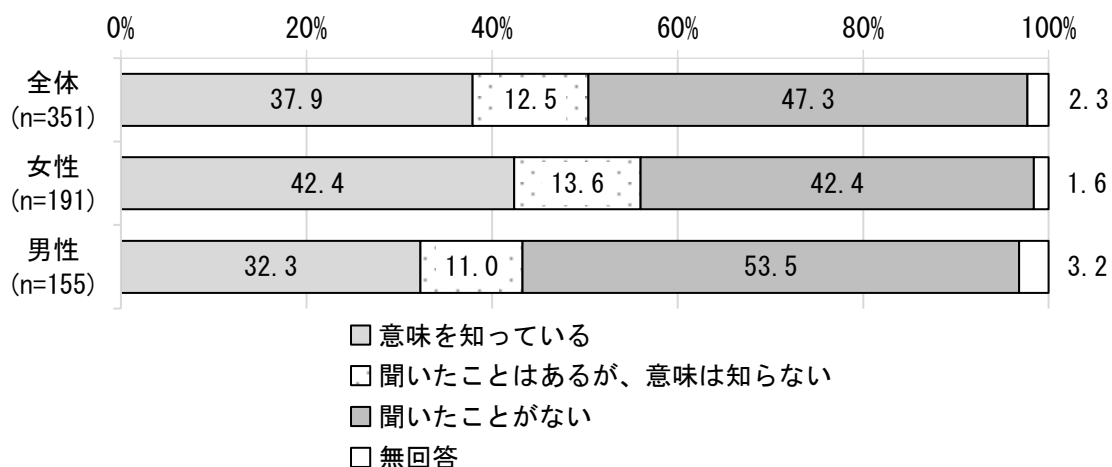
4. デートDVについて

問 12 あなたは「デートDV」という言葉を知っていましたか。(○は1つ)

「聞いたことがない」が47.3%で最も多く、次いで「意味を知っている」が37.9%、「聞いたことはあるが、意味は知らない」が12.5%となっている。

性別で認知度をみると、女性が42.4%に対して男性は32.3%と女性の方が10.1ポイント多く、性別により違いがみられる。

図表Ⅱ-21 「デートDV」の認知（単数回答）



■平成28（2016）年度区調査との比較

女性も男性も同様に認知度が増加している。

図表Ⅱ-22 「デートDV」の認知（単数回答）【平成28（2016）年度区調査との比較】

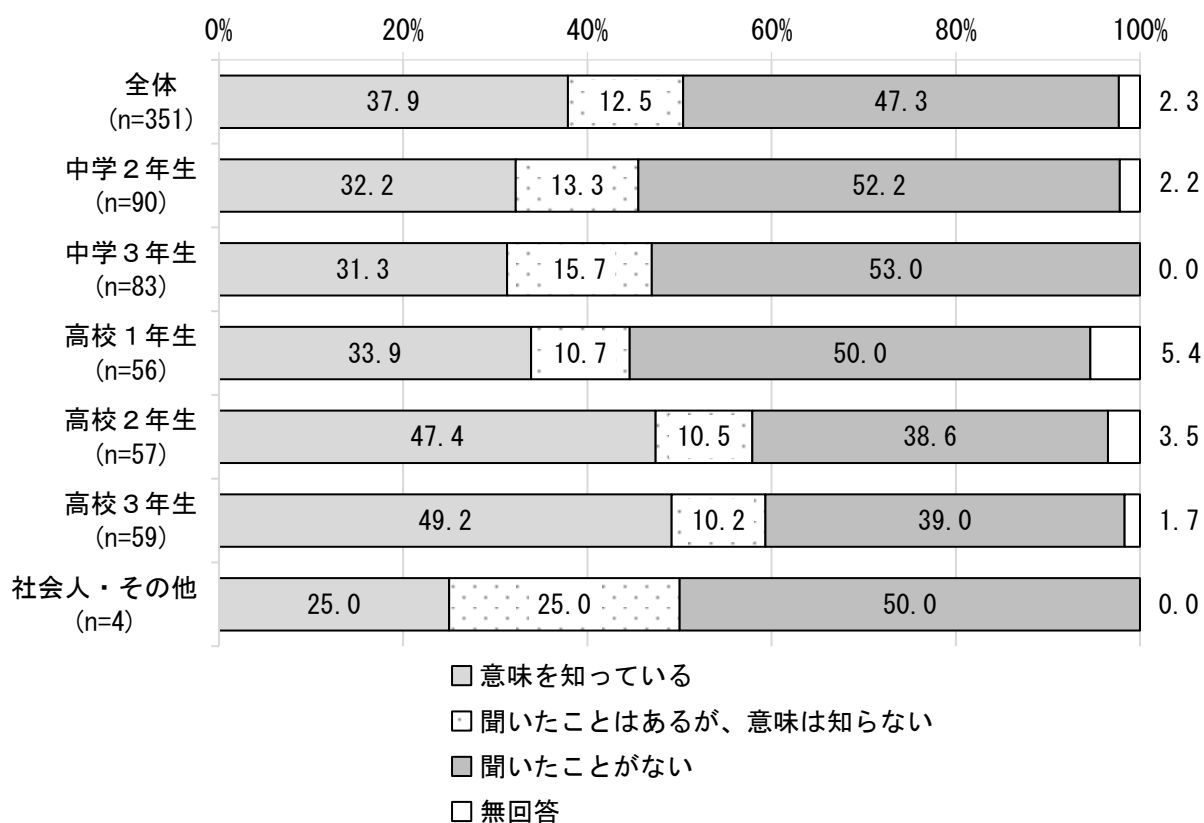
| | | 合計 | 意味を知っている | 聞いたことはあるが、意味は知らない | 聞いたことがない | 無回答 |
|----|-----|---------|----------|-------------------|----------|-----|
| 全体 | R2 | (n=351) | 37.9 | 12.5 | 47.3 | 2.3 |
| | H28 | (n=723) | 29.2 | | 69.6 | 1.2 |
| 女性 | R2 | (n=191) | 42.4 | 13.6 | 42.4 | 1.6 |
| | H28 | (n=394) | 30.2 | | 68.3 | 1.5 |
| 男性 | R2 | (n=155) | 32.3 | 11.0 | 53.5 | 3.2 |
| | H28 | (n=328) | 28.0 | | 71.0 | 0.9 |

※平成28（2016）年度区調査では、選択肢が（「デートDV」という言葉を聞いたことが）「ある」「ない」の2択となっていた。

■学年別でみる「デートDV」の認知

学年が上がるにつれて、認知度も高くなる傾向がみられる。

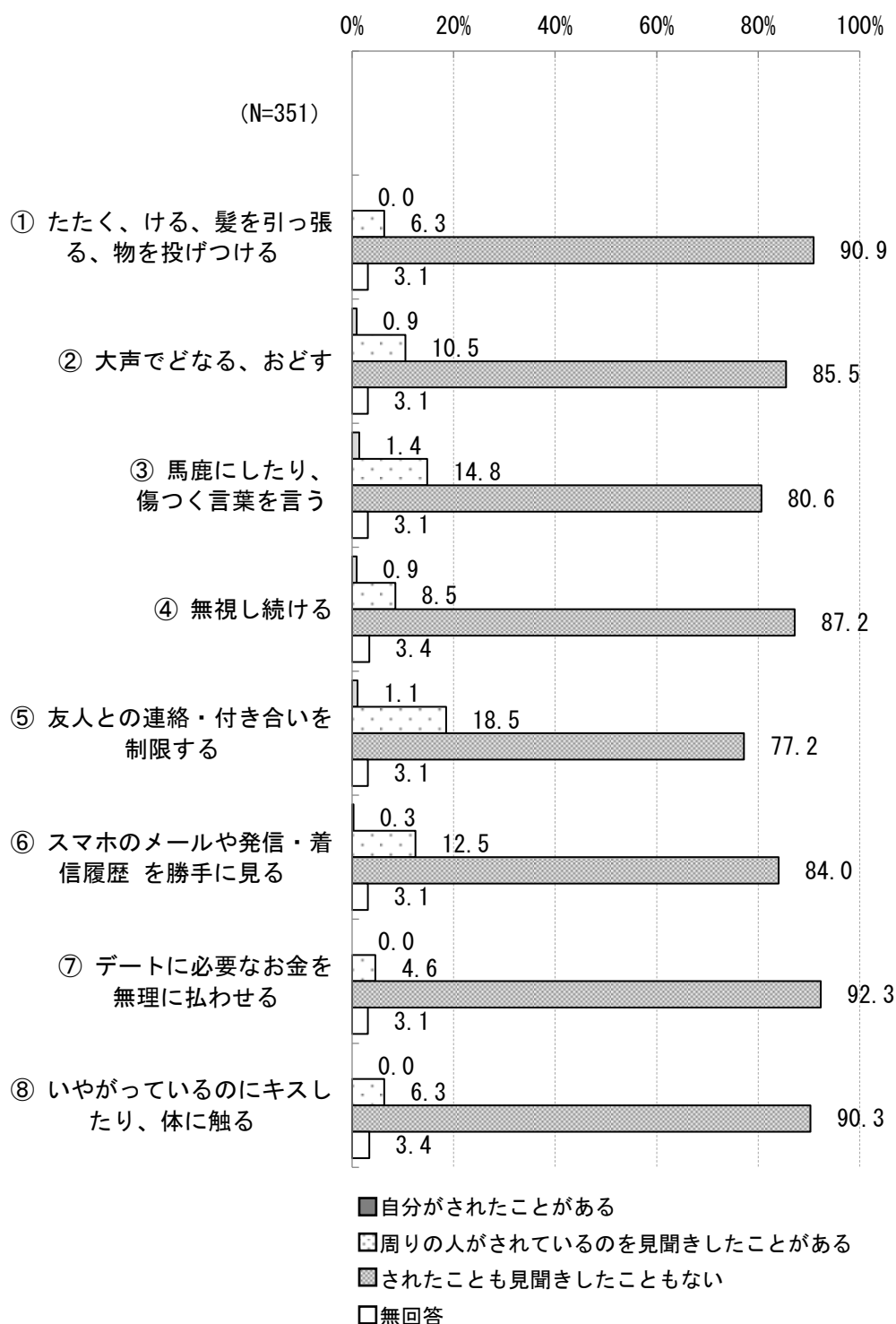
図表Ⅱ-23 学年別でみる「デートDV」の認知（単数回答）



問 13 ア：あなたは、恋人の間で起こる次の項目①～⑧のような行為をされたことや見聞きしたことはありますか。(それぞれの項目について○は2つまで)

いずれの項目においても、「されたことも見聞きしたこともない」が最も多い。自分がされたことのある行為では、項目③「馬鹿にしたり、傷つく言葉を言う」が1.4%、項目⑤「友人との連絡・付き合いを制限する」が1.1%、項目②「大声でどなる、おどす」、項目④「無視し続ける」が0.9%となっている。周りの人がされているのを見聞きしたことがある行為では、項目⑤「友人との連絡・付き合いを制限する」が18.5%と最も多く、次いで項目③「馬鹿にしたり、傷つく言葉を言う」が14.8%、項目⑥「スマホのメールや発信・着信履歴を勝手に見る」が12.5%となっている。

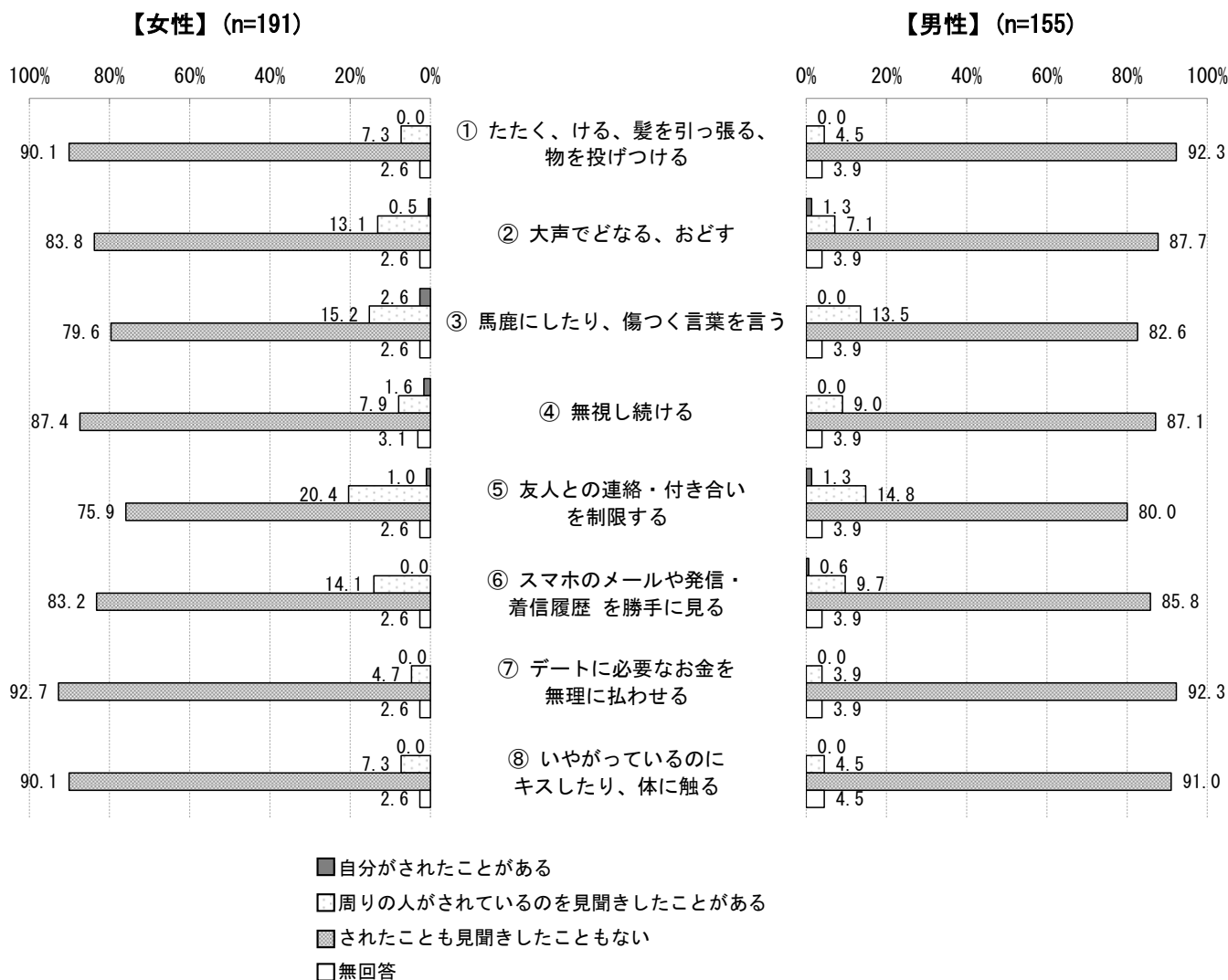
図表Ⅱ-24 デートDVを受けた経験と見聞きした経験（複数回答）



■性別でみるデートDVを受けた経験と見聞きした経験

いずれの項目においても、「されたことも見聞きしたこともない」が最も多く、性別による差はあまりみられない。

図表Ⅱ-25 性別でみるデートDVを受けた経験と見聞きした経験（複数回答）



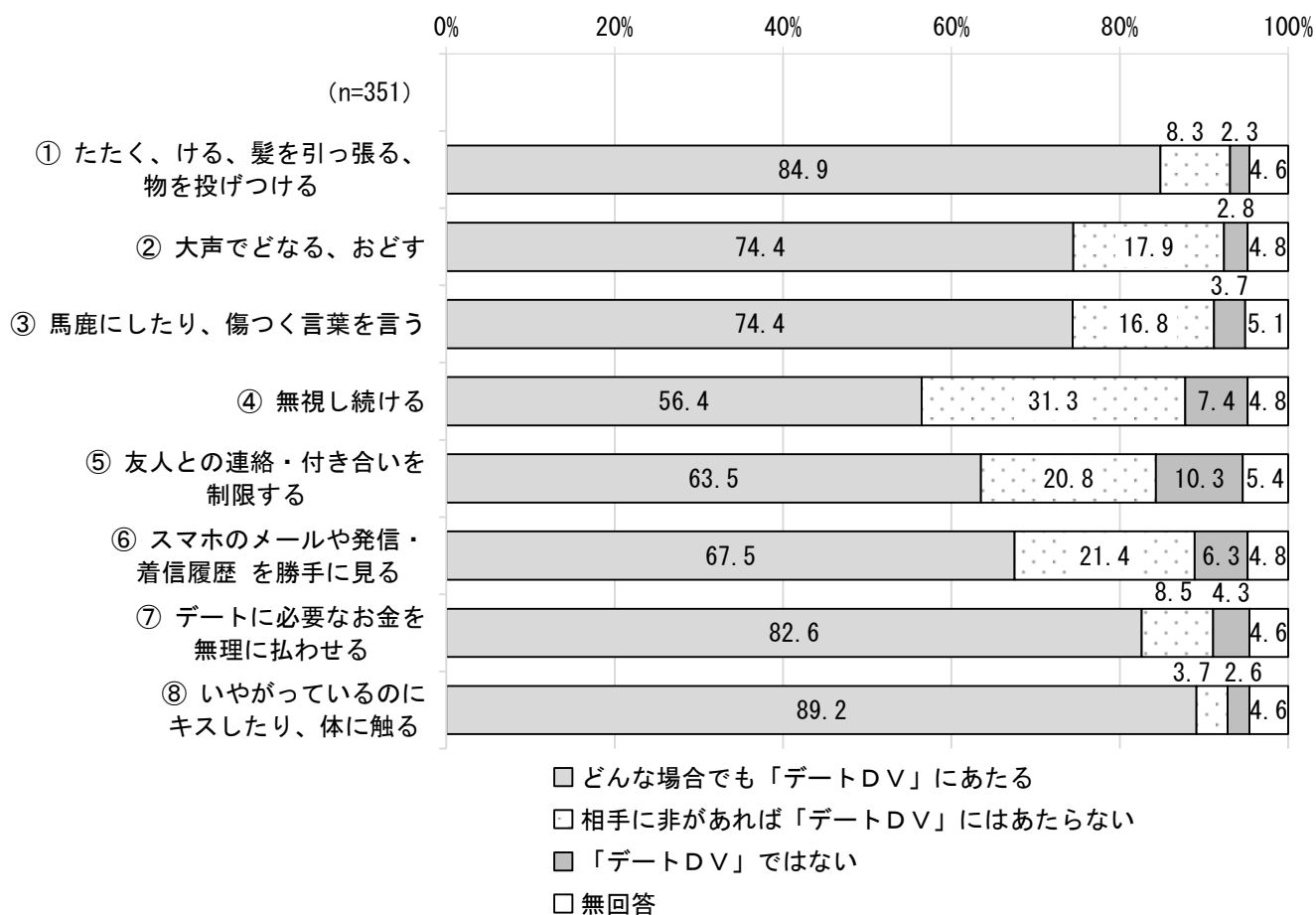
問 13 イ：恋人の間で起こるこれらの行為を「デートDV」だと思いますか。

(それぞれの項目について○は1つずつ)

項目①「たたく、ける、髪を引っ張る、物を投げつける」などの身体的暴力や項目⑧「いやがっているのにキスしたり、体に触る」などの性的暴力に対して、「どんな場合でも「デートDV」にあたる」との認識が多い。

一方で、項目④「無視し続ける」などの精神的暴力に対しては、身体的・性的暴力と比較して、「どんな場合でも「デートDV」にあたる」の割合が低い。

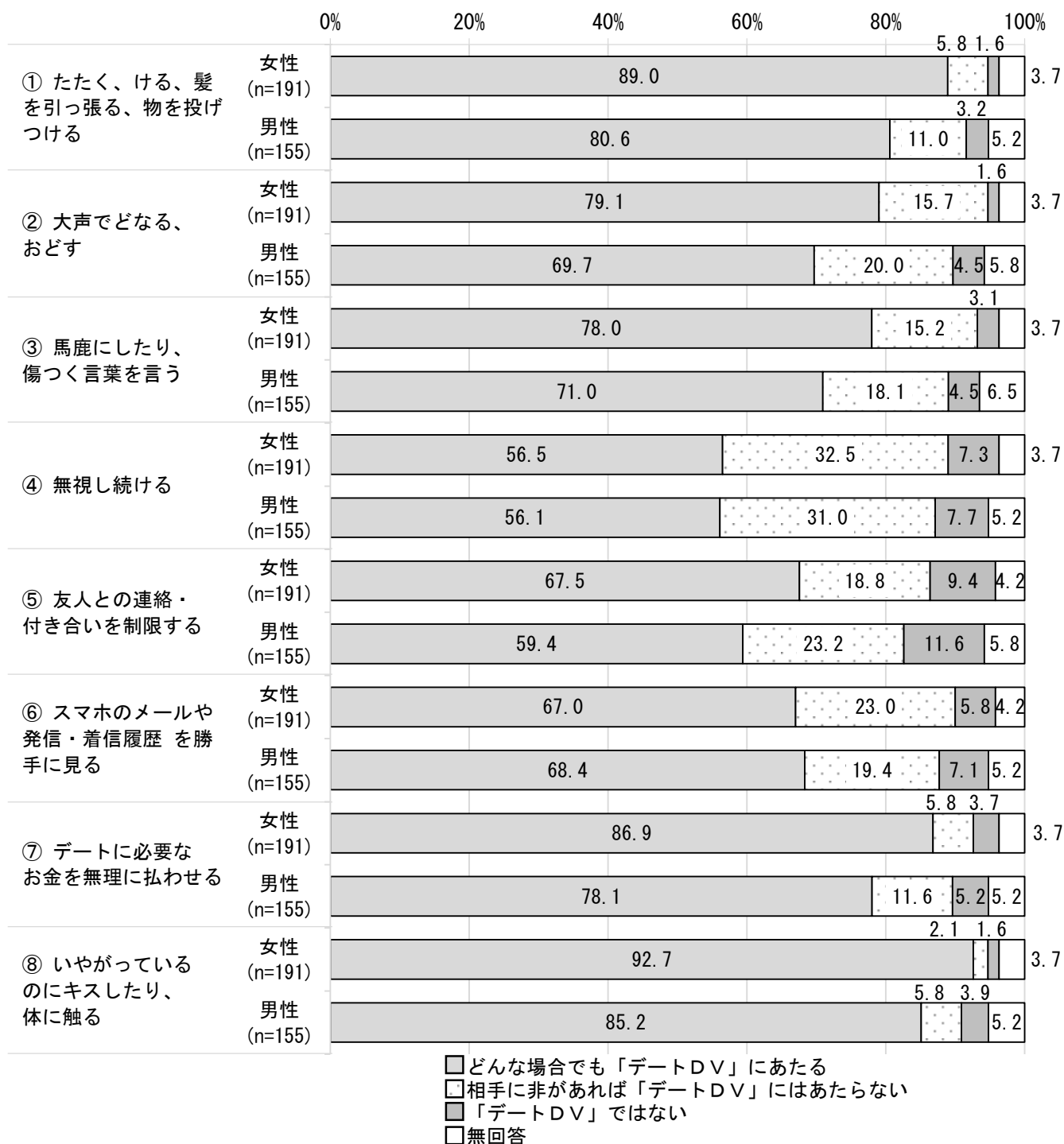
図表Ⅱ-26 デートDVに対する認識（単数回答）



■性別でみるデートDVに対する認識

「どんな場合でも「デートDV」にあたる」について、項目⑥「スマホのメールや発信・着信履歴を勝手に見る」を除き、女性の方が割合が高い。

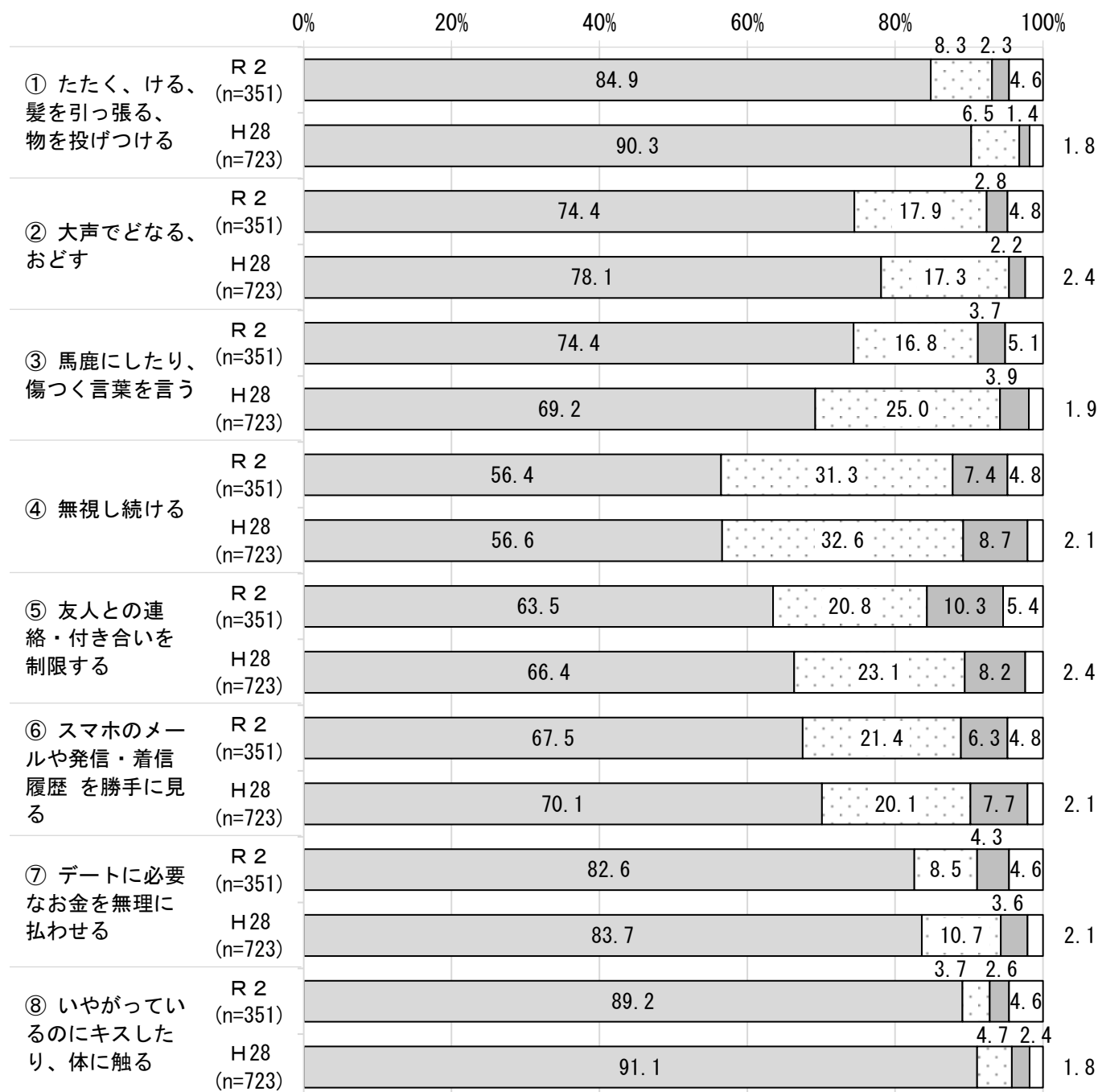
図表Ⅱ-27 性別でみるデートDVに対する認識（単数回答）



■平成28（2016）年度区調査との比較

項目③「馬鹿にしたり、傷つく言葉を言う」については、「どんな場合でも「デートDV」にあたる」との認識が69.2%から74.4%へ5.2ポイント増加しているが、その他の項目は少し減少している。

図表Ⅱ-28 デートDVに対する認識（単数回答）【平成28（2016）年度区調査との比較】



- どんな場合でも「デートDV」にあたる
- 相手に非があれば「デートDV」にはあたらない
- 「デートDV」ではない
- 無回答

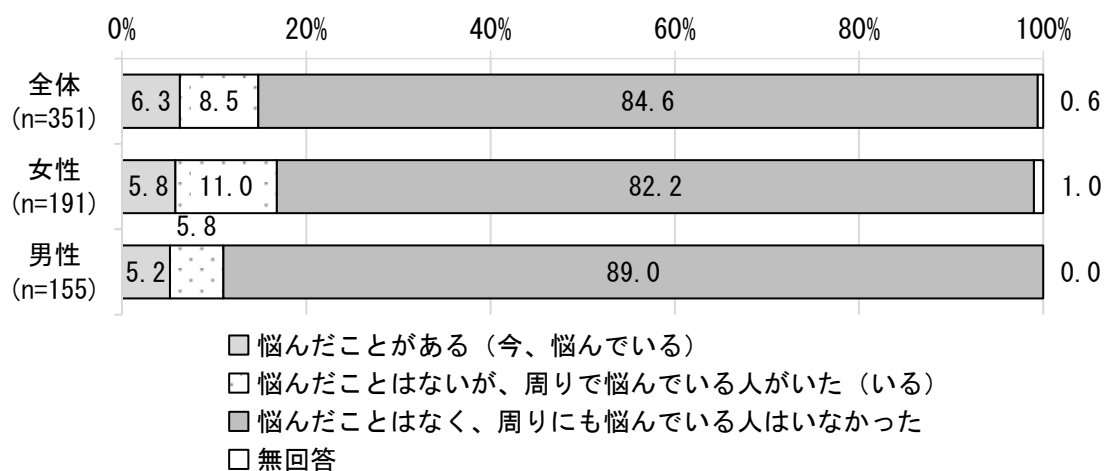
5. LGBTsについて

問 14 あなたは、今までに、好きになる性（性的指向）や心の性（性自認）について悩んだことはありますか。また、周りの人で悩んでいる人はいますか。（○は1つ）

「悩んだことはなく、周りにも悩んでいる人はいなかった」が84.6%で最も多く、次いで「悩んだことはないが、周りで悩んでいる人がいた（いる）」が8.5%、「悩んだことがある（今、悩んでいる）」が6.3%となっている。

性別でみると、女性も男性も同様に「悩んだことはなく、周りにも悩んでいる人はいなかった」が最も多く、女性82.2%、男性89.0%となっている。次いで「悩んだことはないが、周りで悩んでいる人がいた（いる）」が女性11.0%、男性5.8%となっている。

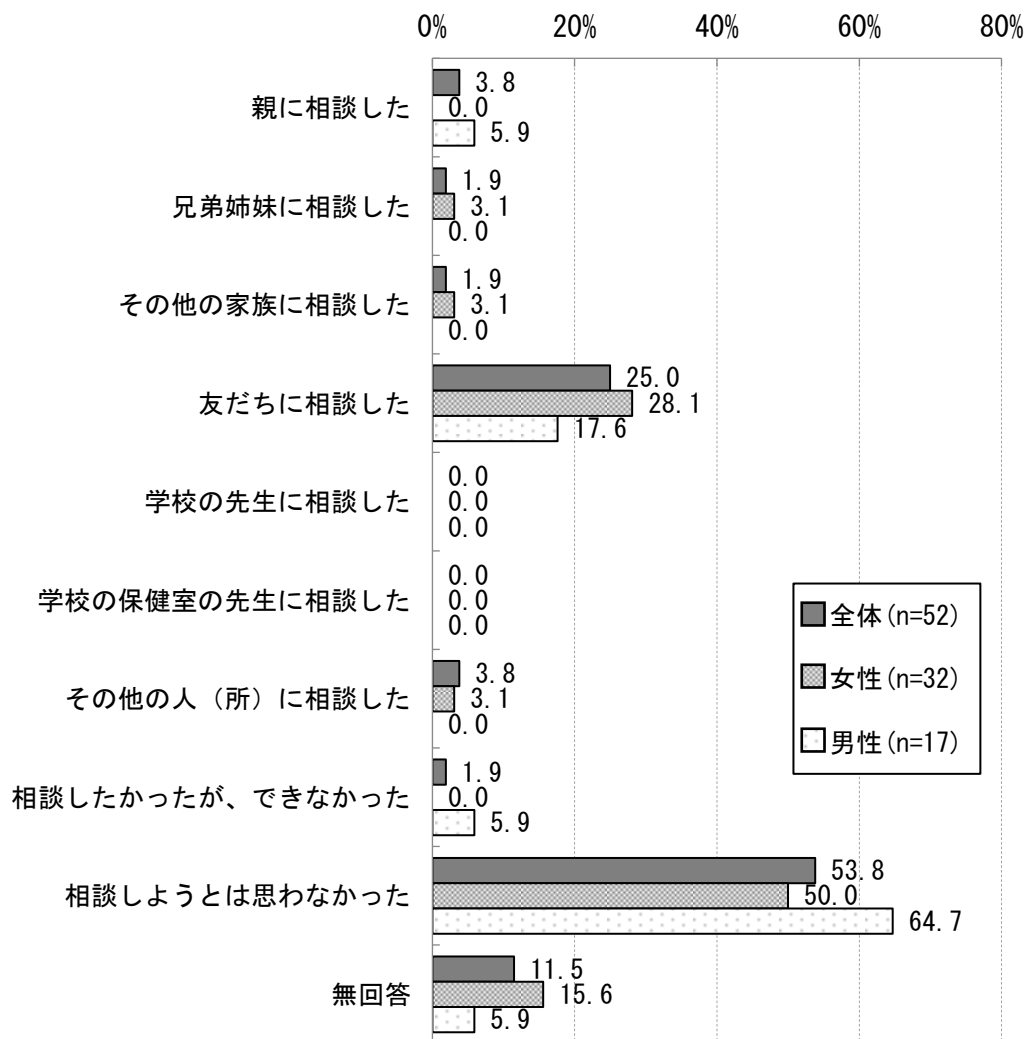
図表Ⅱ-29 性的指向や性自認で悩んだ経験と周囲に悩んでいる人の有無（単数回答）



付問 14-1 問 14 で「1 悩んだことがある（今、悩んでいる）」「2 悩んだことはないが、周りで悩んでいる人がいた（いる）」を選択した方だけ回答ください。あなたは、その悩みを相談しましたか。（〇はいくつでも）

「相談しようとは思わなかった」が 53.8% と最も多く、次いで「友だちに相談した」が 25.0%、「親に相談した」「その他の人（所）に相談した」が 3.8% となっている。

図表 II-30 性的指向や性自認で悩んだときの相談先（複数回答）

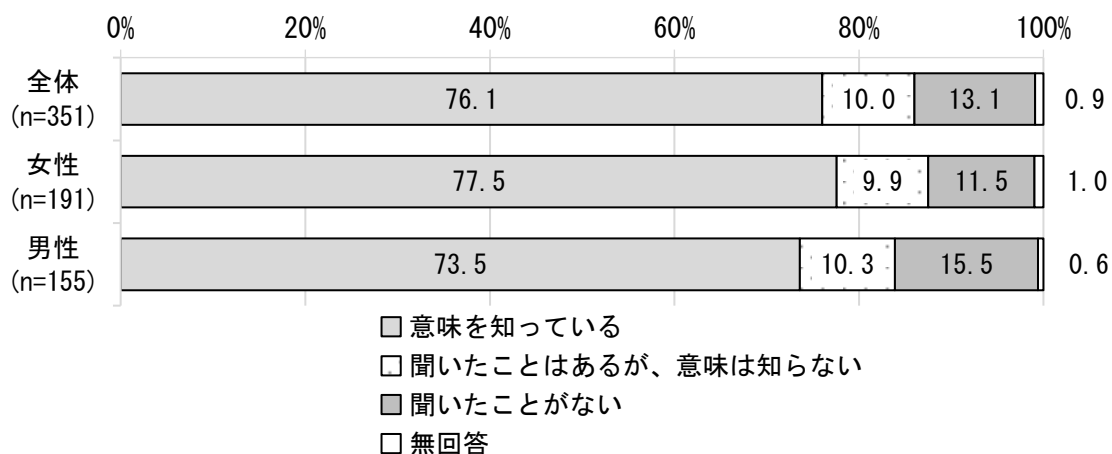


問 15 あなたは、「LGBTs」という言葉を知っていましたか。(○は1つ)

「意味を知っている」が76.1%で最も多く、次いで「聞いたことがない」が13.1%、「聞いたことはあるが、意味は知らない」が10.0%となっている。

性別で認知度をみると、女性は77.5%に対して男性は73.5%と女性の方が4.0ポイント多い。

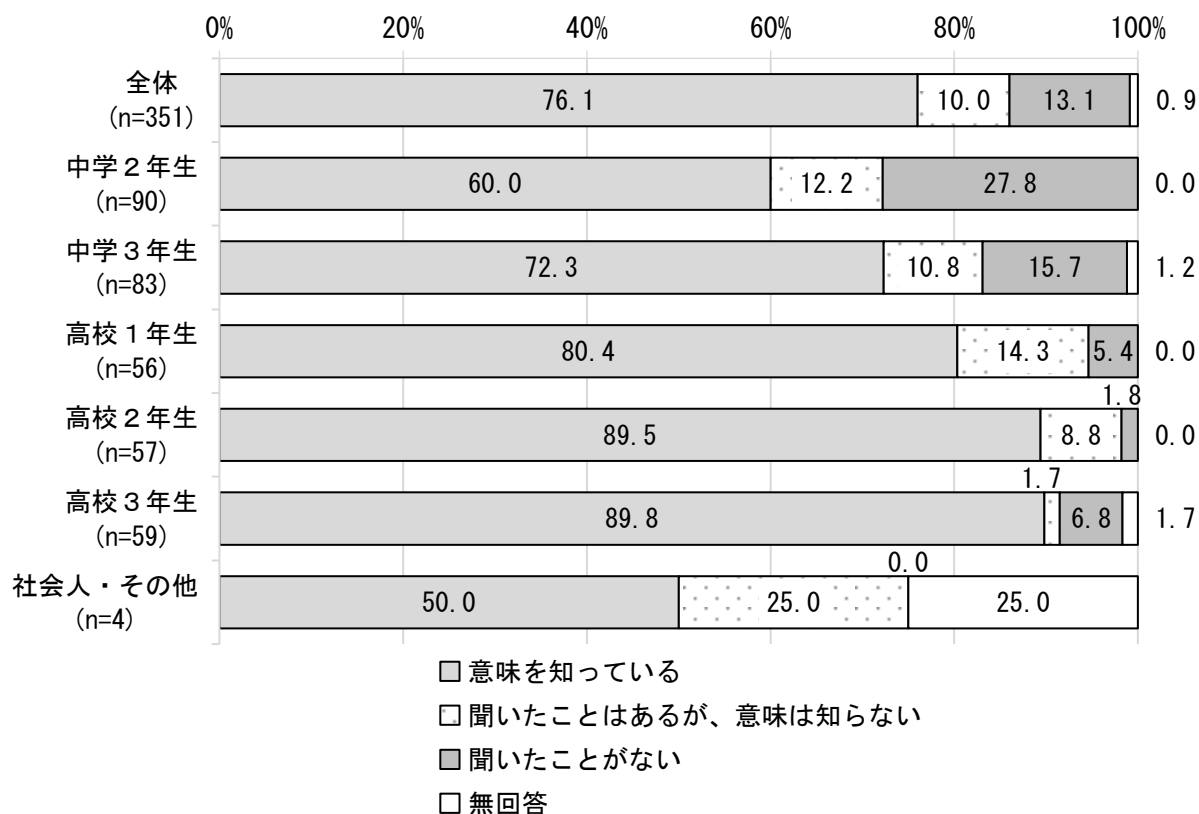
図表Ⅱ-31 「LGBTs」の認知(単数回答)



■学年別でみる「LGBTs」の認知

学年が上がるにつれて、認知度も高くなる傾向がみられる。

図表Ⅱ-32 学年別でみる「LGBTs」の認知(単数回答)

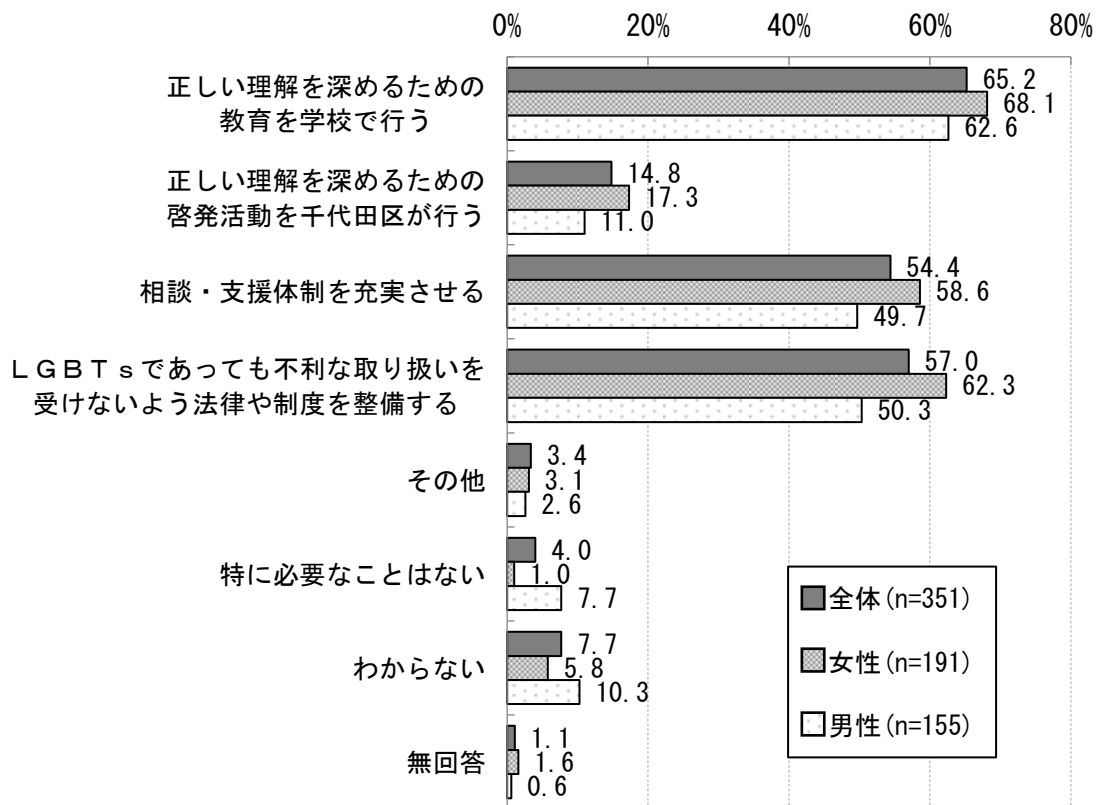


問 16 あなたは、LGBTsの方々の人権を守るために、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

「正しい理解を深めるための教育を学校で行う」が65.2%と最も多く、次いで「LGBTsであっても不利な取り扱いを受けないよう法律や制度を整備する」が57.0%、「相談・支援体制を充実させる」が54.4%となっている。

性別でみると、女性も男性も同様に「正しい理解を深めるための教育を学校で行う」が最も多く、次いで「LGBTsであっても不利な取り扱いを受けないよう法律や制度を整備する」となっている。

図表Ⅱ-33 LGBTsの人権を守るために力を入れていくべきこと（複数回答）



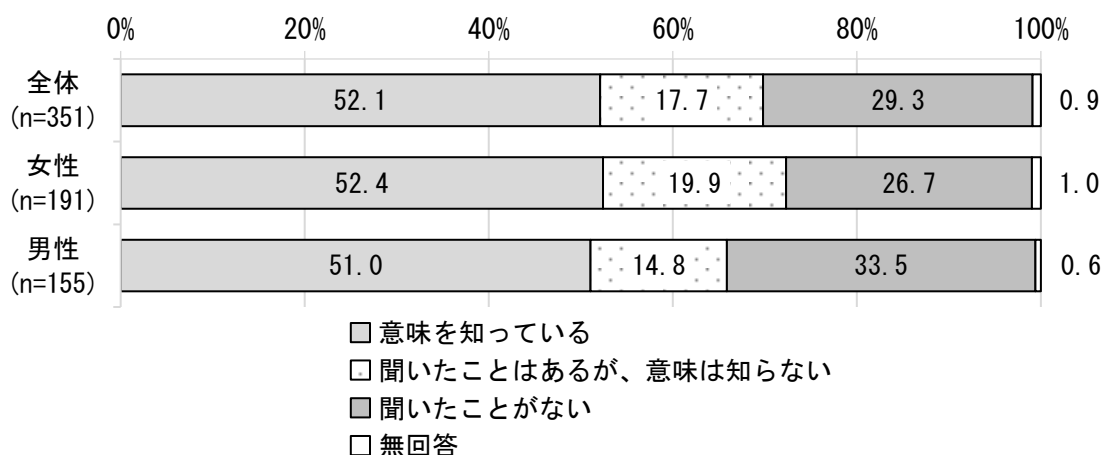
6. 男女共同参画社会の実現に向けた取組について

問 17 あなたは、「男女共同参画」という言葉を知っていましたか。(○は1つ)

「意味を知っている」が52.1%で最も多く、次いで「聞いたことがない」が29.3%、「聞いたことはあるが、意味は知らない」が17.7%となっている。

性別で認知度をみると、女性は52.4%に対して男性は51.0%と女性の方が1.4ポイント多い。

図表Ⅱ-34 男女共同参画の認知（単数回答）

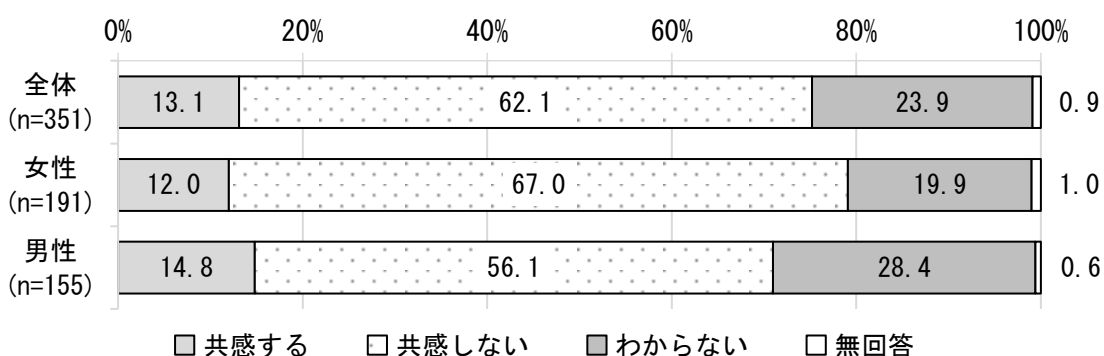


問 18 「男性は仕事をして、女性は家庭を守る」という性別で役割を分担する考え方がありますが、あなたはこの考え方に共感しますか。(○は1つ)

「共感しない」が62.1%で最も多く、次いで「わからない」が23.9%、「共感する」が13.1%となっている。

性別でみると、女性も男性も同様に「共感しない」が最も多いが、女性が67.0%に対して男性は56.1%と女性の方が10.9ポイント多く、性別により考え方に違いがみられる。

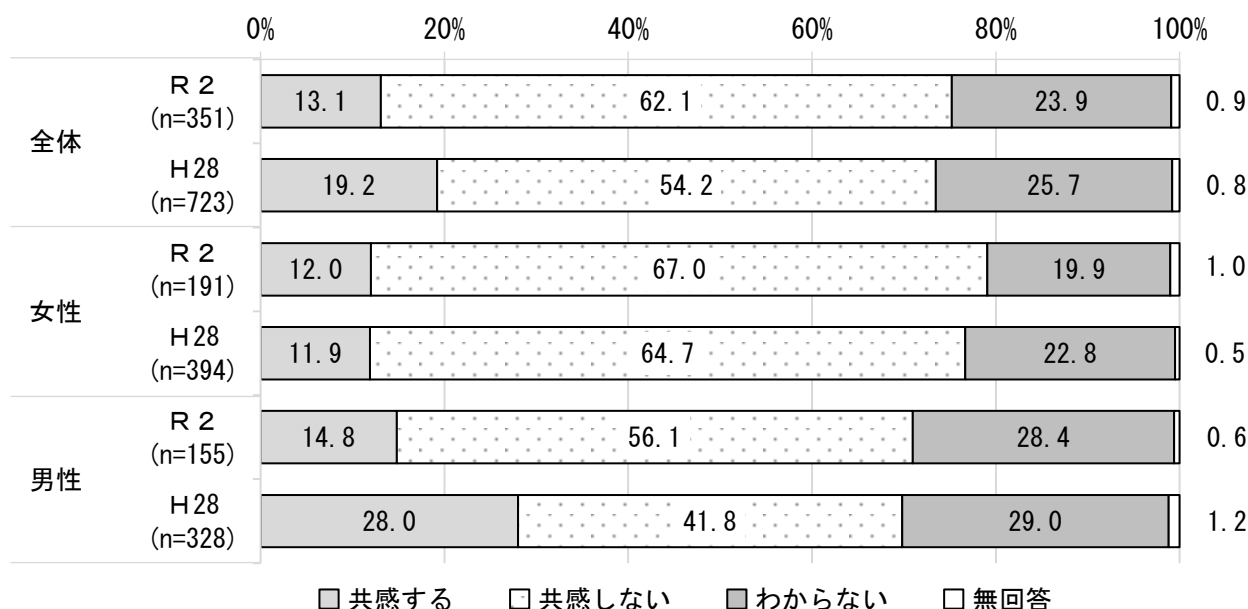
図表Ⅱ-35 性別役割分担に対する考え方（単数回答）



■平成28（2016）年度区調査との比較

女性も男性も同様に「共感しない」が増加しており、特に男性は41.8%から56.1%へ14.3ポイントと大幅に増加している。

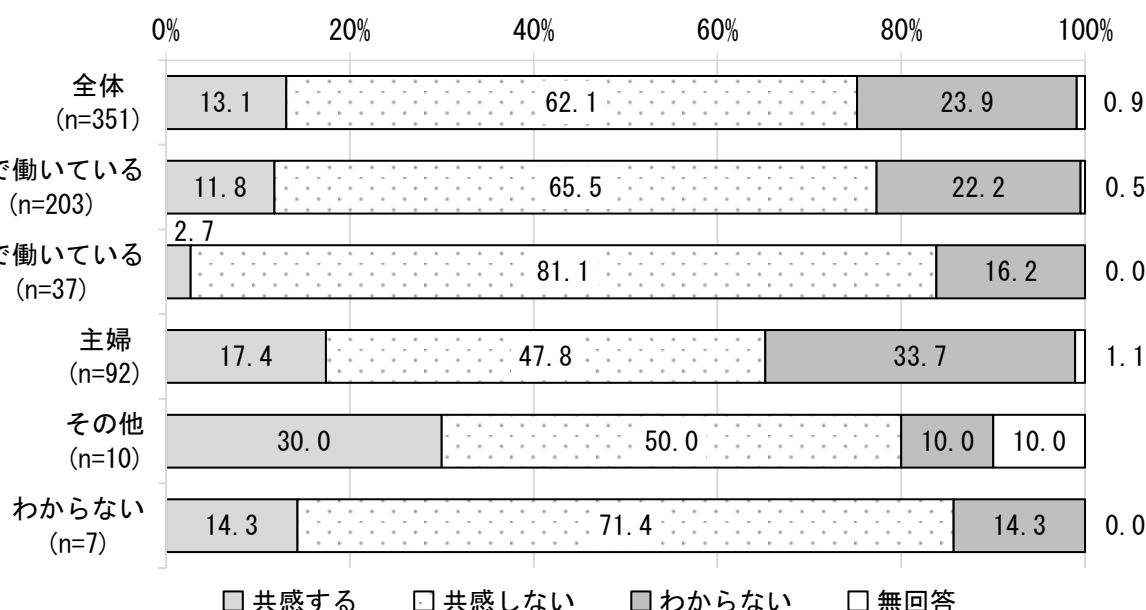
図表Ⅱ-36 性別役割分担に対する考え方（単数回答）【平成28（2016）年度区調査との比較】



■母親の就業状況別でみる性別役割分担に対するの考え方

母親が働いている場合の方が主婦の場合よりも「共感しない」の割合が高く、性別による仕事・家庭の役割分担に否定的な考えが多いことが伺える。

図表Ⅱ-37 母親の就業状況別でみる性別役割分担に対する考え方（単数回答）

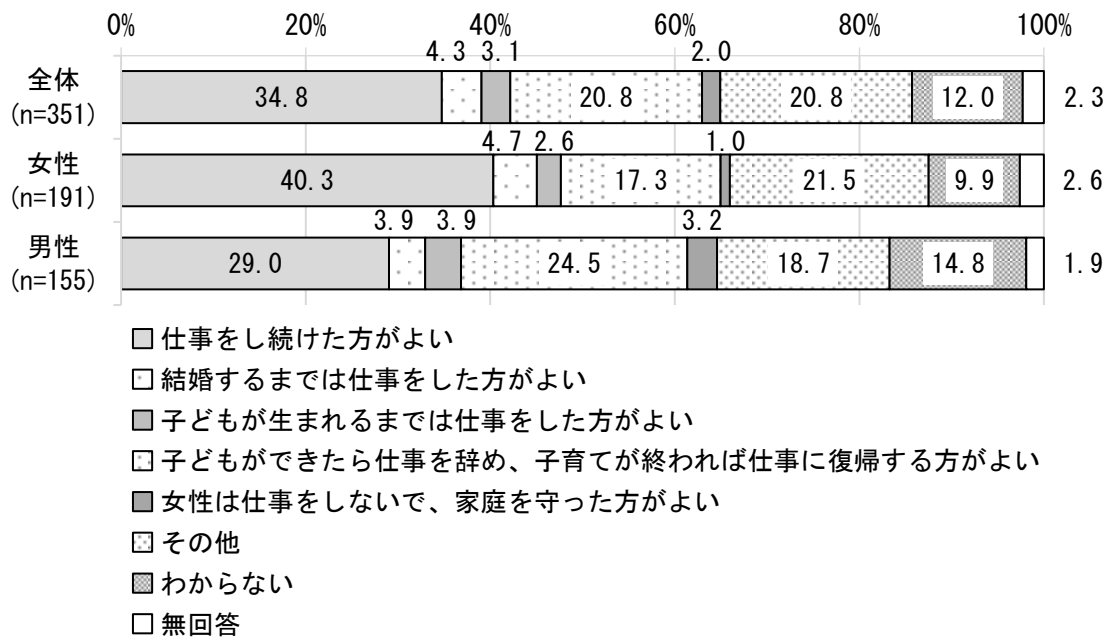


問 19 あなたは、女性が仕事をする事について、どのように考えますか。(○は1つ)

「仕事をし続けた方がよい」が 34.8%と最も多く、次いで「子どもができたら仕事を辞め、子育てが終われば仕事に復帰する方がよい」と「その他」が 20.8%となっている。

性別で見ると、女性も男性も同様に「仕事をし続けた方がよい」が最も多いが、女性が 40.3%に対して男性は 29.0%と女性の方が 11.3 ポイント多い。

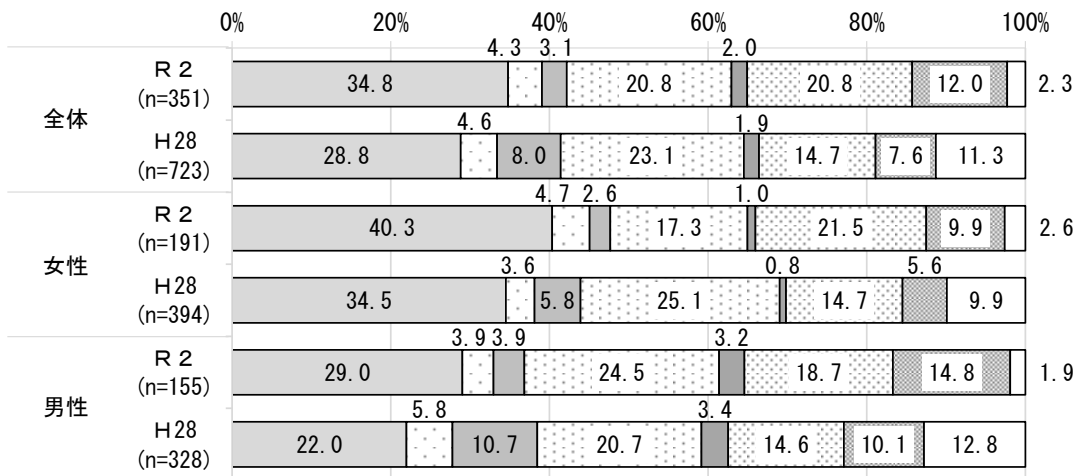
図表Ⅱ-38 女性の就業に対する考え方（単数回答）



■平成28（2016）年度区調査との比較

いずれの調査においても「仕事をし続けた方がよい」が最も多く、女性も男性も同様にその割合が増加していることから、女性が仕事を続けることに対して肯定的な意見が増えていることが伺える。

図表Ⅱ-39 女性の就業に対する考え方（単数回答）【平成28（2016）年度区調査との比較】

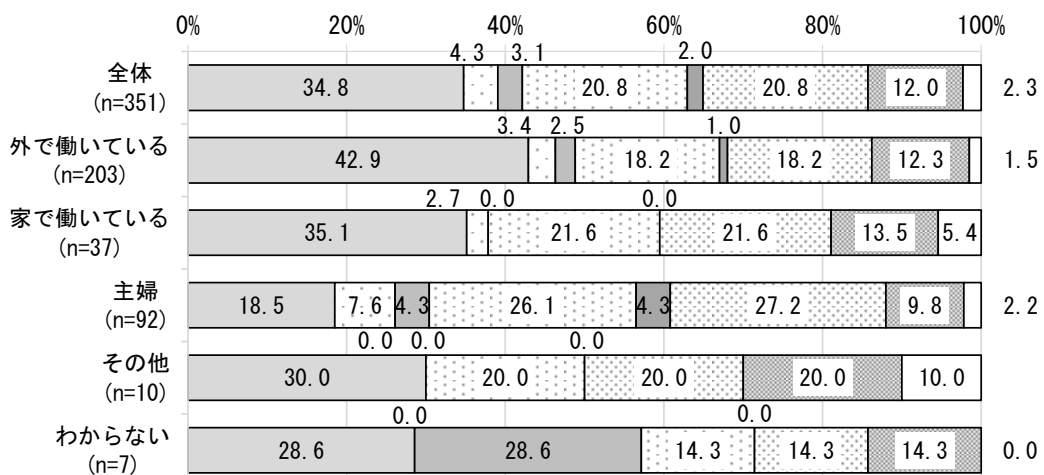


- 仕事をし続けた方がよい
- 結婚するまでは仕事をした方がよい
- 子どもが生まれるまでは仕事をした方がよい
- 子どもができたなら仕事を辞め、子育てが終われば仕事に復帰する方がよい
- 女性は仕事をしないで、家庭を守った方がよい
- その他
- わからない
- 無回答

■母親の就業状況別でみる女性の就業に対する考え方

母親が働いている場合の方が主婦の場合よりも「仕事を続けた方がよい」が多く、女性が仕事を続けることに対して肯定的であることが伺える。

図表Ⅱ-40 母親の就労状況別にみる女性の就業に対する考え方（単数回答）



- 仕事をし続けた方がよい
- 結婚するまでは仕事をした方がよい
- 子どもが生まれるまでは仕事をした方がよい
- 子どもができたなら仕事を辞め、子育てが終われば仕事に復帰する方がよい
- 女性は仕事をしないで、家庭を守った方がよい
- その他
- わからない
- 無回答

問 20 あなたは、テレビやインターネットなどのメディアが発信するジェンダー表現について、日頃どのように感じますか。(〇はいくつでも)

「特に女性について、見た目や若さを強調している」が 33.3%と最も多く、次いで「わからない」が 27.1%、「色で性別を分けるなど、興味関心や服装・外見等の個性を無視したり軽くみたりしている」が 24.2%となっている。

性別でみると、女性は「特に女性について、見た目や若さを強調している」が最も多いが、男性は「わからない」が最も多い。また、「特に女性について、見た目や若さを強調している」について、女性は 39.8%に対して男性は 24.5%と女性の方が 15.3 ポイント多く、性別により考え方に違いがみられる。

図表Ⅱ-41 メディアの発信するジェンダー表現に対する考え方（複数回答）

